

豊中市立幼保連携型

認定こども園 全体計画



平成 28 年（2016 年）3 月

令和元年（2019 年）6 月改訂

豊中市こども未来部

豊中市立幼保連携型認定こども園全体計画
目 次

はじめに

I 豊中市の就学前の子どもの現状と課題	1
II 作成までの経緯	2
III 役割・位置づけについて	3
IV 豊中市立幼保連携型認定こども園教育・保育課程	4
1. 基本理念	
2. めざす子ども像	
3. 発達の特徴と育ちの連続性（発達の姿：資料 1）	
4. 指導計画の作成について	
5. 年間指導計画について（留意点）	
6. 教育・保育課程の年の目標	
7. 年齢別年間指導計画（0 歳児～5 歳児）	
8. 小学校教育との円滑な接続	
9. 食育計画	
10. 行事について	
11. 地域支援・地域との連携	
◆ めざす地域子育て支援	
◆ 子育て支援センターほっぺ	
◆ 緊急一時保育	
V 特に配慮すべき事項	24～27
◆ 延長保育(資料 2)	
◆ 特別支援教育（障害のある園児の指導）	
◆ 特別に配慮を要する園児への対応	
◆ 園児の多様性への配慮(資料 3：一日の流れ)	
◆ 健康、安全など（資料 4）	
◆ プライバシーの保護(資料 5)	
◆ 質の評価、園評価(資料 6)	
◆ 苦情解決	
◆ 評議会	
◆ 職員研修（職員の資質向上）（資料 7）	
◆ 休日保育（満 1 歳以上）（資料 8）	
◇ 資料 1 ～ 資料 8	28～45
◇ 参 考	46～53
➤ 月の指導計画（記入ポイント）	
➤ 資質・能力の三つの柱	
➤ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	
➤ こども園ソング	

はじめに

平成 27 年度（2015 年度）からの「子ども・子育て支援新制度」施行に伴い、本市は、保護者の就労状況の違いにかかわらず、質の高い小学校就学前の学校教育・保育や地域の子育て支援を総合的に提供していくことをめざし、公立のすべての就学前教育・保育施設を幼保連携型認定こども園に移行し、取り組みをすすめてまいりました。

「豊中市立幼保連携型認定こども園全体計画」は、職員が取り組むにあたっての基本とするものとして、こども園へ移行する前から、前身である幼稚園・保育所の枠を超えて話し合いを積み重ね、平成 28 年 3 月に策定したものです。

また、本市が今日に至るまで長きにわたって培ってきた、人権保育基本方針や障害児保育基本方針を中心に据えた教育・保育の一層の推進を図るものとして願いがこめられた内容となっています。

今般の改訂では、公立こども園の役割を改めて示すとともに、地域支援の取り組みや公民協働で市域全体の教育・保育の質の底上げをすすめる取り組みを新たに掲載しました。職員は、公立こども園の役割を踏まえ、子育て支援も含め、自らの行動に結びつけることができるよう日々の努力を積み重ねていくことが大切です。

今後も、めざす子ども像である“人とつながり生きる力の基礎を培う”の実現に向け、職員一人一人がこの計画を深く理解するとともに、活用され実践されることで、本市の教育・保育がより確かなものとなることを願います。

I 豊中市の就学前の子どもの現状と課題

- ・ 社会経済の活性化の必要性や女性の社会進出に対する意識の変化、また他市からの転入による千里地域での子どもの増加などの影響から、待機児童数が年々多くなってきており、待機児童解消は喫緊の課題になっています。
- ・ 遊び場の環境の変化や安全面などから、昔の原っぱのような場所での子ども同士の出会いは減少しています。また、子育て・子育て支援の必要な地域の保護者が居場所や相談相手を求めている実態があります。そのため、地域子育て支援センターを中心に保育所・幼稚園などの子育て事業活動への参加利用が増加しており、就学前施設での異年齢を含めた多様な保育提供が必要になってきています。
- ・ 核家族世帯やひとり親世帯など家族の形態が多様化していることや、少子化により兄弟姉妹の数が少ないことなどから、子どもに目が向き過ぎるため、過保護・過干渉になってしまう保護者の姿が見られます。また一方で子どもへの関心が薄くネグレクトに陥る傾向も見られ、様々な家庭状況がうかがえます。各関係機関が連携し一人一人に対して丁寧な対応をするとともに、虐待予防につながる取り組みの強化が必要になってきています。
- ・ 孤立した子育ての中で、能力主義的な価値観から、他児と比較してできないことに対する焦りを感じたり、子どもの発達に対する漠然とした不安を感じたりするといった保護者の声が相談事業などで多く聞かれますが、継続的な子育て支援で保護者の相談に丁寧に対応していくと、改善される姿も多く見られます。
- ・ 「良い保護者でいなければ」という意識があり、周りからの見られ方を気にして、目の前の子どもと向き合えずインターネットなどの子育て情報やアプリなどに頼ってしまう傾向があります。そのため、ゆったり家庭で過ごす時間、子どもと向き合う時間が子どもの心や体の成長にとっても重要なことだと伝えていく必要があります。
- ・ 気持ちのコントロールやコミュニケーション力の弱さなどに課題がある児童が、保育所・幼稚園や子育て支援センターなどで見受けられることが多くなっています。障害などに関する相談も増えていますが、子どもが集団で生活すること、遊ぶことなどの経験不足がその原因である場合もあります。また自閉症スペクトラムに見られるように、「障害」に対する早期教育の意義の認知が広がったことなども理由の一つではないかと考えられ、それに伴って、保護者が

意識的に療育等の専門機関と関わることを通して、子どもの発達を促す手立てを学ぶ体制が充実してきています。しかしその一方で、子育てに関する情報過多により、かえって子どもとの関わり方がわからなくなったり、成長の姿を認められなかったりするなど、子育ての不安が増大してしまう保護者も多くいることも現状の一つです。

II 作成までの経緯

国の動向として、平成 25 年度に幼保連携型認定こども園教育・保育要領の告示があり、平成 26 年度にその解説書が作成されました。

「幼保連携型認定こども園」とは、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして満 3 歳以上の子どもに対する教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的として認定こども園法第 2 条の定めるところにより設置される施設であると謳われています。

具体的な実施経過については、豊中市における乳幼児期の教育・保育課程の必要性を鑑み、平成 25 年 5 月にこども未来部保育幼稚園室において、公立の保育士・幼稚園教諭の代表委員による「保育・教育課程検討委員会」を立ち上げ、豊中市立幼保連携型認定こども園に向けて、基本となる保育理念や子ども像などを検討し、教育・保育の骨格について議論を深めました。

次いで、平成 26 年度には、各施設からの代表委員を増やし、歳児ごとの作業部会において、教育・保育課程及び年間指導計画について検討し、「豊中市立幼保連携型認定こども園教育・保育課程（案）」を作成しました。

さらに、平成 27 年度には、教育・保育課程を教育及び保育の内容に関する豊中市の「全体的な計画」にするために、特に配慮すべき事項を踏まえた内容も加え、平成 28 年 3 月末に「豊中市立幼保連携型認定こども園全体計画」としました。（以下全体的な計画を全体計画と示す）

Ⅲ 役割・位置づけについて

○「豊中市立幼保連携型認定こども園全体計画」は「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を踏まえ、「豊中市立保育所保育課程」「豊中市立幼稚園教育課程編成要領」を基に、豊中市のめざす子ども像を掲げ、人とつながり生きる力の基礎を培うことを目的とします。

○各施設においては、豊中市の「全体計画」を基に地域、家庭、子どもの実態等に応じて、入園から修了、さらに小学校教育との円滑な接続も踏まえた目的や目標に向かって、園児の充実した生活を展開できるような教育・保育を行います。また「豊中市人権保育基本方針」「豊中市障害児保育基本方針」を継続し、教育・保育の理念の根幹に位置づけ、よりきめ細やかで丁寧な実践を具体化していきます。

○特にこども園においては、子どもの一日の生活のリズムや集団生活の経験年数が異なる等の固有の事情に配慮していかなければなりません。更に、地域の子育て拠点として、家庭や地域社会との連携を強化し、専門力を資源として市民に還元していく役割も担います。

★公立こども園の適正配置に向けた基本方針(平成28年(2016年)8月策定)

○「子ども健やか育みプラン・とよなか」に示す“めざす姿”の実現に向けて、公立こども園の今後の取り組みの具体化に向けた考え方を示すもの。

めざす姿：◇小学校就学前の学校教育・保育の一体的な推進、質の向上

◇幼少期から義務教育期間まで、つながりのある育ちへの支援

◇地域子育て支援センターを中心としたネットワーク

公立こども園の4つの役割

◆ベンチマーク機能

◆子育てに関するセーフティネット機能

◆人材育成機能

◆地域子育て支援拠点機能

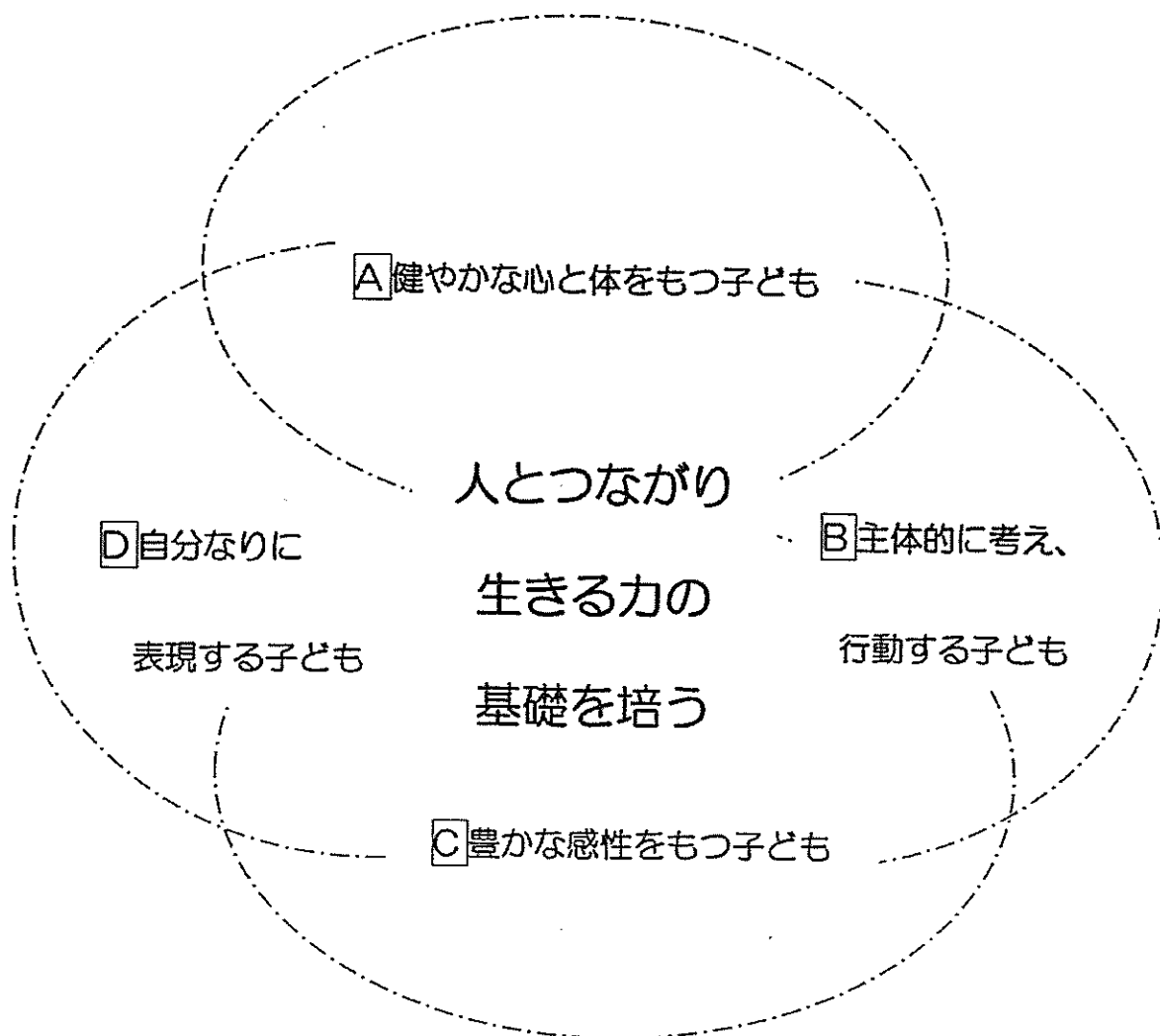
*詳細は、豊中市ホームページに掲載

IV豊中市立幼保連携型認定こども園教育・保育課程

1. 基本理念

- ・乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で重要な時期であることを踏まえ、一人一人の発達に応じた適切な援助の下、多様な人との関わりや生活経験を積み重ね、環境を通した教育・保育を行う。
- ・一人一人の人権を大切にした教育・保育を通して、それぞれがかけがえのない存在として認められるとともに、自己肯定感を育み、生きる力の基礎を培う。

2. めざす子ども像



☆子ども像 『人とつながり生きる力の基礎を培う』

- 一人一人が、かけがえのない命を持って生まれてきたことを、子ども自身やその子を取り巻く大人も大切にしていける。
- 教育・保育をする大人は、子どもの生きようとする姿を尊敬する。子ども自身が生活の主体として生きる基礎を培うように教育・保育を進めていく。
- 大人との信頼関係を基盤に、豊かに人とつながり、関係の広がりの中で生きる基礎を培う。
- 教育・保育を通して、多様な経験を重ね意欲を持ち、学ぼうとする力が育つようにする。

☆子ども像の4つの柱・・・指導計画を作成する際の具体的なポイント

* 4つの柱は独立しているのではなく、重なり合って相互に関連し合っている。

A 「健やかな心と体をもつ子ども」とは

- ・子ども達は、いろいろな状況、背景を持って生まれてくる。病気や障害がある子どももいる。健やかな体とは、単に“健康である”ということだけをめざすのではなく、心も体もその子どもなりの健康な状況で、生きる意欲を持って、自分の体を大切にできるといえることである。
- ・体を動かしたり、五感を使ったりして遊ぶような活動に取り組む。体に障害があり動かすことにハンデがある子どもも、その子どもなりの感覚で自ら動かそうとして動かし、身体を動かすことが楽しくなるようにしていく。
- ・健康でしなやかな体は、安定した健康な心と一体だと考え、心も体も健全な状態になるように教育・保育を考えていく。
- ・生活や健康については、背景として家庭の問題も大きく影響している。各こども園の実態に応じて、課題をあげ、家庭、地域と連携して取り組んでいく。
- ・保育教諭や友達と生活する中で、必要な生活リズムや習慣、ルールを身につけ、子ども自らが見通しを持って生活することができるようにしていく。
- ・子どもが命の大切さを知るといえることを教育・保育の中で取り組んでいく。
- ・「楽しんで食べること」「食べることの意味」「命をいただいているということ」など年齢に合わせたねらいをもって、食育について取り組んでいく。

B 「主体的に考え、行動する子ども」とは

- ・子ども自身が見通しを持って、仲間とともに主体的に遊び、生活するということを大切にいく。

- ・主体的に活動していくために、子ども自身が何でもやってみようという気持ちを持てるように環境構成を行う。
- ・子ども自身が考え、試し、工夫するなど学びにつながる活動を行う。
- ・子どもが「やりたい」と思う活動に取り組み、最後までやりきった達成感や、充実感を大切にしていく。
- ・一人ではできないことも、友達と協力して取り組み、一緒にすることで、遊びが楽しく、豊かになる。友達と喧嘩になったり話がかみ合わなかったりうまくいかないこともあるが、相手の思いを聞き、気持ちに気付いたり、意見を交し合う中でコミュニケーション力や調整力を養う。また一人一人の思いを大切にする友達の中で、社会規範など学んでいく。

C 「豊かな感性をもつ子ども」とは

- ・子どもを取り巻く周りの大人が、子ども一人一人を尊敬し大切にに関わる中で、子ども達は、自分のことが好きで、自分のことを大切にできる気持ちを持てるようになる。
- ・身近な自然環境に関わることで、五感を働かせ、様々なことに触れ、感性を豊かにしていく。
- ・身近な人と関わることで、いろいろな刺激を受けたり、気持ちに共感をしたりして、人と関わることの心地よさを感じ、つながることで、感性を豊かにしていく。
- ・人と関わることで、その表現の仕方や行動の違いに気付き、その違いをお互い認め合い尊敬する関係を大切にして教育・保育を進めていく。また関わりの中で、不当なこと、公平でないことに疑問を持ち、その悔しい思いなどを大切に、友達と考えていける力を育てる。

D 「自分なりに表現する子ども」とは

- ・思いや、感じたことを、自分なりのしぐさや言葉で表現することを大切にする。
- ・いろいろな表現方法を通して、気持ちを動かし、感じたことを、豊かに表現できるようになる。
- ・友達の表現を見たり、真似をしたりすることで、お互いの表現を知り合う。
- ・人と関わる中で、話す力、聞く力を育てる。
- ・友達と、経験したことや絵本などのイメージを共有して、様々な表現を楽しむ。

3. 発達の特徴と育ちの連続性（発達の姿…資料1）

4. 指導計画の作成について

- ・全体計画に基づいて園児の発達の実情に照らし合わせながら、園児一人一人が生活を通して発達に必要な体験が得られるような、具体的な指導計画を作成する必要がある。
(3つの資質と10の姿を把握すること…参考資料参照)
- ・指導計画では、具体的なねらいや内容、配慮事項、環境の構成、保育教諭等の援助などの指導内容や方法を明らかにする必要がある。
- ・具体化する際には、長期的な見通しを持った 年、期、月などの計画、それと関連して、より具体的な園児の生活に則した 週、日などの短期的な計画を作成する。

5. 年間指導計画について（留意点）

年間指導計画は、子どものそれぞれの発達に即した、教育・保育を展開していくために、各年齢においての子どもの姿、ねらい、内容、保育教諭の援助や配慮、家庭、地域等の連携について具体化したものである。

① 子どもの姿

- ・年齢の特徴的姿を示している。それを参考にして、具体的なクラスの子どもの姿から、子ども理解を行い、それぞれの指導計画に活かしていく。
- ・年の目標（年のめざす子ども像）に則して各年齢で予想される子どもの姿を表していく。

② ねらいについて

- ・年の目標（子ども像）、予想される子どもの姿から、各年齢の年間のねらいを決め、それらを達成するために、期別に分け具体的な活動を見通したねらいをたてていく。
- ・期の区切りについては、3か月を目安に4期に分けているが、年齢やクラスの現状を考えて、期を想定しても良い。

③ 内容について

- ・5領域と養護、食育を入れて活動を考えていく。
- ・活動の中では、生活・遊びについて考える。遊びなどの活動の育ちと、人との関係の育ちや子ども自身がつけていく力、主体性など子どもの側からの内的活動を考えていく。
- ・活動全体を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であると捉える。その姿は、到達すべき目標ではなく、方向性であることに留意すること。

④ 環境・保育教諭の援助や配慮について

- ・環境について、具体的に必要なものを記入する。子どもの姿やねらいに合わせて、環境を考えるので、活動や子どもの姿に合わせて変化させていく。
- ・保育教諭の役割として、どのような援助や配慮が必要かを記入している。（期別にその関わり方を関係の育ちとして考える）

⑤ 保護者支援について

- ・必ず保護者との連携が必要なことについて記入している。それぞれのクラスで、保護者の現状に合った課題を出し、指導計画に活かしていく。

⑥ 地域支援、地域との連携

- ・こども園と地域との交流の取り組みについて記入していく。

◎指導計画は乳幼児理解に基づき、指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、園児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われる。常に指導の過程について、実践を通し反省や評価を行い、改善を図られなければならない。（PDCA サイクル）

6. 教育・保育課程の年の目標（年齢ごとのめざす子ども像）

年齢	ねらい
0歳児 (6か月未満)	A 特定の保育教諭との関わりの中で、保育教諭に受け止められている安心感を持つ B 特定の保育教諭からの働き掛けで、聞く・見る・触るなどの五感を通した経験をしながら興味が広がる C 特定の保育教諭との関わりの中で、好きな保育教諭や友達が存在がはっきりする D 特定の保育教諭に受け止められながら、泣いたり、声（喃語）を出したり、動いたりすることで気持ちが伝わることを感じる
(6か月～)	A 安心できる保育教諭のもとで、食事・排泄・睡眠などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生えてくる B 保育教諭と遊びの面白さを共感する中で、玩具や生活に使うものを試しながら、活動や興味が広がっていく C 保育教諭との愛着関係の中で、自ら関わりたいという気持ちが芽生えてくる D 保育教諭とのやり取りを通して、表情や身振りで気持ちを伝えようとしたり、日常的に使われる言葉が理解できるようになったりする
1歳	A 保育教諭に十分に甘え、受け止められることが心地よいと感じる中で、自分でやってみようとする B 身近なものに興味をもち、自ら探究しながら楽しむ C 大好きな保育教諭や友達ができ、一緒に過ごすことを喜ぶ D 保育教諭に見守られながら、自分の思いをしぐさや表情、言葉などで表現する
2歳	A 安心できる保育教諭のもとで、身のまわりのことを自分でしようとする B 自分の好きな遊びを見つけ、繰り返し遊ぶことを楽しむ C 保育教諭や友達に思いを出し、自分から関わりを持とうとする D 見立て遊びやつもり遊びを通して、保育教諭を仲立ちとした言葉のやり取りを楽しむ
3歳	A 保育教諭等に見守られている安心感の中で、毎日の生活の見通しが持てるようになり、自分でできることが増えたり、友達と一緒に協力しようとしたりする B 保育教諭等や友達とのやり取りを楽しみ、けんかをしたり、順番や交代を経験したりして、一緒にいろいろな遊びをやってみようとする C 自分のやりたいことや好きなことがあり、気持ちや感じたことを周りに伝え、保育教諭等の仲立ちで、自分や友達の気持ちを伝える。 D 様々な表現のしかたを経験し、言葉や身振りなど自分なりに気持ちや思いを伝えようとする
4歳	A いろいろな活動の中で、十分に体を動かして遊び、またやりたいという思いを膨らませる B 自分なりに納得のいくまでやりきり、満足感を味わう C 自分の思いを伝えるとともに、友達の思いにも気付き、分かろうとする D 経験したことや思ったこと、感じたことを言葉で相手に伝えようとする
5歳	A 体を存分に動かして遊ぶ心地よさを感じながら取り組み、充実感を味わう B 友達と一緒に共通の目的を持って活動を進めていくおもしろさや満足感を味わう C 一人一人の違いを認め合い、互いを大切にしようとする D 友だちと活動する中でイメージを膨らませ、心を通わせて遊ぶ楽しさがわかる
1年生 1学期	<体と健康を大切にする力> 自らの体を大切に思い、運動に親しみ健康な生活を営む力 <他者を思いやり、豊かな人間関係を築く力> 他者を尊敬し、コミュニケーションを取りながら、豊かな人間性や社会性を育み、人とつながっていく力 <自らの道を選択する力> 夢に向かい、自己肯定感を持ちながら自らの生き方を見通し、自己決定する力 <学び続ける力> 生涯を通して学び続ける力 <確かな学力> 知識・技能の習得と、自ら考え、主体的に判断し、表現する力

*年齢の区分は、あくまでも目安であり、個々人の発達年齢を配慮すること。

*年齢区分は、子どもの発達を一つの指標としてみることに

< 平成 20 年の保育所保育指針より >

年齢区分の内訳

・子どもの発達課程の 8 区分

- ① おおむね 6 か月未満
- ② おおむね 6 か月から 1 歳 3 か月未満
- ③ おおむね 1 歳 3 か月から 2 歳未満
- ④ おおむね 2 歳
- ⑤ おおむね 3 歳
- ⑥ おおむね 4 歳
- ⑦ おおむね 5 歳
- ⑧ おおむね 6 歳

「同年齢の子どもの均一的な発達の基準ではなく、一人一人の子どもの発達課程としてとらえるべきであり、様々な条件により、子どもの発達上の課題や保育所の生活になじみにくいなどの状態が見られても、保育士等は、子ども自身の力を十分に認め、一人一人は発達過程や心身の状態に応じた適切な援助及び環境構成を行うことが重要である」としています。



<平成 30 年保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂により・・・>

- ① 乳児期 (0 歳児)
- ② 満 1 歳以上満 3 歳未満
- ③ 満 3 歳以上

① 乳児期の園児を主体に 3 つの視点からねらい及び内容を記載

○健やかに伸び伸びと育つ ⇒ 身体的発達に関する視点

○身近な人と気持ちが通じ合う ⇒ 社会的発達に関する視点

○身近なものと関わり感性が育つ ⇒ 精神的発達に関する視点

*乳児保育については、生活や遊びが充実することを通して、3 つの視点から、保育内容を考えること。

②③

○健康 ⇒ 心身の健康に関する領域

○人間関係 ⇒ 人との関わりに関する領域

○環境 ⇒ 身近な環境との関わりに関する領域

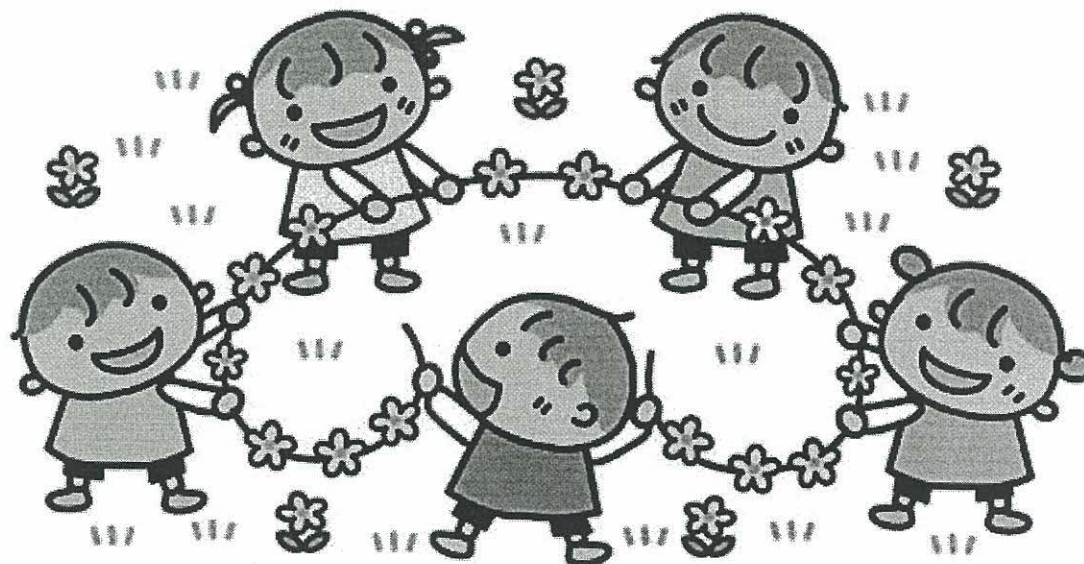
○言語 ⇒ 言葉の獲得に関する領域

○表現 ⇒ 感性と表現に関する領域

*5 つの領域に関する学びが、大きく重なり合いながら、生活や遊びの中で育まれているということを踏まえること。

7. 年齢別年間指導計画

- ・ 0 歳児 (6 か月未満)
- ・ 0 歳児 (6 か月～1 歳)
- ・ 1 歳児
- ・ 2 歳児
- ・ 3 歳児
- ・ 4 歳児
- ・ 5 歳児



年間指導計画【0歳児・6ヶ月未満】

年の目標		A 特定の保育教諭との関わりの中で、保育教諭に受け止められている安心感をもつ。 B 特定の保育教諭からの働き掛けで、聞く・見る・触るなどの五感を通して経験をしながら興味が広がる。 C 特定の保育教諭との関わりの中で、好きな保育教諭や友達との存在がはっきりする。 D 特定の保育教諭に受け止められながら、泣いたり、声（喃語）を出したり、動いたりすることで気持ちが伝わることを感じる。			
期		1期(4月～5月)	2期(6月～9月)	3期(10月～12月)	4期(1月～3月)
子どもの姿		- 首がすわり、腹ばいで頭を持ち上げたり手足をバタバタさせたりする。 - 手を伸ばし物を握む。 - 相手をしてほしい時などに、いろいろな方法で自ら人を呼ぶ。 - 人に向けて声を出したり、声に変化をつけ、快・不快を表わしたりする。 - 手に触れたものを口に入れたり、音の出る物を何度も振ったりして遊ぶ。	- 寝返りや自由な姿勢を変えたり、目的地に移動したりする。 - 座る姿勢になると、座位でしばらく遊ぶ。 - 身近な人を見ると表情やしぐさで嬉しさを表す。 - 人の表情や身ぶりを通して、何となく言葉の意味が分かり始める。 - 人見知りや好きな人の後追いが始まる。 - 見知らぬ人や見慣れない物をじっと見る。 「いや」なことがはっきりしてきて、泣いたり、しぐさや声に変化を付けたりして、要求や気持ちをしっかりと出す。	- ハイハイで行きたい所へ移動する。 - 親指と人差し指で小さな物を握む。 - 好きな人といると落ち着き、自ら関わろうとする。 - 人見知りが始まったり、好きな人を後追いつたりする。 - 友達をじっと見て、笑ったりさわたりする。 「ブー」「マンマ」「ワンワン」など保育教諭の言葉の意味が分かり始める。 - 同じ遊びを繰り返しやり取りすることを求める。 - 好きな歌や手遊びの一部を真似たり、体や頭を揺らしたりする。	- 一人で立ち、つたい歩きをしたり、2～3歩歩いたりする。 - 段差を這って登る。 - 両手を物を持って打ち鳴らしたり、片手からもう片方の手に物を持ちかえたりする。 - 好きな人に甘えたり頼ったりする。 - 保育者や友達が遊んでいる姿を見て傍に行ったり真似したりする。 - 指さして要求を示したり、一語文を発したりして、身振りや動作で「ブー」「マンマ」などの言葉が伴ってくる。 - 名前を呼ばれたら自分のことだと分かる。 - 遊びを予測して、実現してもらうことを楽しむ。 - 絵本に興味を持つ。
ねらい		A お腹がすいた時にミルクを飲み、眠たくなった時に眠るなど、個々のペースで過ごす。 B 特定の保育教諭の関わりのもと、人と触れ合う心地よさを感じたり、その関わりの中で玩具に興味を持ったりする。 C いつも関わる保育教諭のもと、安心して心地よく過ごす。 D 特定の安心できる保育教諭との関わりの中で情緒が安定する。	A それぞれのリズムができ、いつも関わる特定の保育教諭に抱かれたい触れられたいことで、安心して、心地よく過ごす。 B 特定の保育教諭の働き掛けや、興味のあるものに自ら働き掛ける。 C 好きな保育教諭とのやり取りの中で、人と一緒に過ごす楽しさを感じ、人と触れ合うことが心地よくなる。 D 好きな保育教諭とのやり取りの中で、色々な感情を声や全身で表現し、受け止められることの心地よさを感じる。	A 特定の保育教諭に要求を満たしてもらうことで安心感をもち、次の要求を出すようにする。 B 特定の保育教諭と関わり、触れ合う楽しさや玩具で遊ぶ楽しさを知る。 C 安心できる保育教諭がいることで、友達の存在に気づく。 D 好きな保育教諭に喃語を発して気持ちを表現し、要求をしっかりと出すようにする。	A 特定の保育教諭との安心感のもとで、自分でしたいという気持ちが芽生える。 B 保育教諭や友達の模倣を真似しむ中で応答的に遊んだり、その中で繰り返して楽しむことで予測する遊びが楽しくなる。 C 安心できる保育教諭との関わりの中で、友達に気持ちよく関わろうとする。 D 保育教諭に対して、気持ちや興味を喃語やしぐさで伝えようとする。また、伝わったことを実感しながら保育教諭とのやり取りを楽しむ。
内容	生活	- それぞれの生活リズムで安心して生活（食事・排泄・睡眠）する。 - ミルク以外の味と出会う。 - スプーンと出会う。	- 舌を動かして、ごっくんして食べる。 - いろいろな味を知る。 - スプーンの感触に慣れる。	3回食に移行し、手づかみで食べようとする。 - コップを持ち自分で飲むようにしたり、スプーンで食べようとする。	- 手づかみでしっかり噛んで食べる。 - おまるに座って、おしっこが出たら、保育教諭が嬉しそうにしていることを喜ぶ。
	遊び	- おむつ替えや着脱の時に、「バー」などの大人からの声掛けや触れ合い、マッサージなどをし合うことを楽しむ。 - たわむれ遊びや触れ合い遊びを保育教諭にしてみようことを楽しむ。 （ゆーらゆーら・たいたいたい・一本橋こよこよなど） - 動くものを追って楽しむ。（メリー・ブレイジウムなど） - 色々な物を口に入れたり触ったりして、音や感触を楽しむ。 - 外気に触れる。 - 泣いたり、声を出したり体を動かしたりして、快・不快を知らせる。	- 布を使って遊ぶ。（被せられた布を取る。） - 大布などを使って揺れ遊びを楽しむ。（こりこり・ふわふわマットなど） - 玩具を使って出し入れしたり引っ張ったりすることを楽しむ。→3期まで - バギーに座って散歩に出掛け、色々な物を見たり触れたりする。 - 泣き方や声に変化を付けたり、体を動かしたりして要求を伝える。	- 自分で布を被って「バー」と遊ぶ。 - ハイハイで動いたり、全身を使ったりして遊ぶ。（布団・室内すべり台） - 保育教諭と絵本を見る。 - 保育教諭の積んだ積み木を倒して遊ぶ。 - 砂に触れる。 - 泣いたり、表情や動作や喃語で要求や気持ちを伝えたりする。 - 保育教諭の言葉掛けを聞こうとする。	- ばい遊びをする。（相手を意識して・相手の顔を見て） - 追いかけてと言わんばかりに保育教諭を見ながら逃げる。 - 板道を這ったり、全身を使ったりして遊ぶ。 - 食べ物の絵本を見て大人に食べさせたり、玩具などで保育教諭とやり取りをしたりして遊ぶ。 - 保育教諭が積んだ積み木を倒したり、砂で作られたものをつぶしたりして遊ぶ。 - 大型バギーで散歩に出掛け、色々な物を見たり触れたりする。 - 身振りや動作、指さしに一語文を付けて、要求や気持ちを伝える。
環境構成 保育教諭等の 配慮		- 握りやすさ・大きさ・重さなどを考慮し、発達や興味に応じた玩具を用意する。→4期まで - 落ち着いて眠ったりミルクを飲んだりできる環境を設定する。 - 清潔を保つため、玩具は2セット用意し、毎日洗う。 - 着替えの時など、快や不快が感じられるような言葉掛けを意識し、触れ合いながら関わる。 - 一人一人の好みを細かく把握する。（ミルクの量・温度・乳首の種類など） - 衛生面に配慮し、おむつを替える場所を設定する。→2期まで - 排泄物を観察し、体調の変化などを把握する。 - 子どもの表情やしぐさ、声に合わせて、話し掛けたり声を真似したりして関わる。 - 抱っこやバギーで散歩に出掛け、外気に触れる機会をもつ。→2期まで - 安心して過ごせるよう、担当保育教諭を決め関係づくりをすることで愛着関係を育む。	- 個々に応じた生活リズムで過ごせるようにする。 - 離乳食の食べ具合に応じて、技能員・看護士と連携していく。 - 玩具は必要に応じて消毒する。（洗う・湯拭き・日光消毒）→4期まで - 保育教諭が「ばい」などとして見せたり、布を被せて子どもが取る時に「ばい」と言葉を添えて遊んだりし、興味を引き出す。 - 布・マットレス・積み木ほか、試して遊べる玩具を用意する。（握りやすさ・大きさ・重さなどを考慮する。）→4期まで - 子どもの表情やしぐさから、状況などを問い掛けたり語り掛けたりし、言葉にして関わっていく。→4期まで - 子ども自身が、受け止めてもらったことを実感できるように、子どもの姿に合わせて、保育教諭が声を出したり真似をしたりする。→4期まで - 一人一人を認める声掛けを周りの子ども達にも意図的にしていく。→4期まで	- ある程度一定のリズムで過ごす中で、一人一人が安心して眠れるようにする。→4期まで - 離乳食は、好きな味や食感がでくので、個々の様子を見ながら進める。 - 個々に応じて、おむつからパンツ型に移行していく。 - 着替える場所を設定する。→4期まで - 十分にハイハイでできるような広いスペースや時間を保障し、保育教諭が、子どもと同じ目線で楽しむ。 - かくれて遊ぶようなコーナーやスペースを作る。 - 追いつく遊びでは、保育教諭は「まてまて」などの言葉を添えながら楽しめるようにする。	- 個々の発達の様子や体調に応じて、食材の大きさを変えたり、色々な味に出会うようにしたりする。 - 午睡の後などにおまるに誘い、排泄しやすいタイミングで座らせてみる。 - 自分で服を選ぶなど、子どもが自分で選んだり決めたり、子どもの気持ちを尊重するよう心がける。 - つたい歩きしやすい安全な環境を設定する。
保護者支援		- 家庭でのミルクの飲み方、眠り方、生活のペースなどを細かく聞くことで、保育教諭が一人一人の子どもの生活を知る手がかりとする。 - 一日の様子を伝え、保護者も安心して園に通うことができるようにする。	- 子育てに悩んだり戸惑ったりしていることを、担任に話すことができるように、保護者との信頼関係を築く。 - 担任から園での子どもの様子を聞いて、子どもが付ける力や育ちを確認したり喜んだりする。	わが子と同じクラスの子どもの姿が見えてくる時期なので、クラス懇談会などで、他の保護者と出会い、子ども達の姿や育ちを話したり、子育ての中で感じていることや思いを知り合ったりできるような機会をつくっていく。	- 朝夕の送迎時に出会う保護者同士が、子どもの姿を見て、子どもの姿や育ちについて話したり、共感したりする場を大切にする。 - 気の合う保護者に、子育ての中でつらい事や悩んでいることを話したり、「そうだね」と共感したり、「自分はこうしてみたいよ」と伝えたりできるように、保護者の関係づくりを大事にする。
地域支援 地域との交流		（ねらい）地域の触れ合いの場に参加して、担任以外の人の存在を知る。 - 安心して来園できる雰囲気をつくり、声を掛けに行く。 - 子ども達が安心して園生活をスタートできるような園での配慮を知らせ、見守ってもらう。	- 離乳食の進め方やレシピなどを伝える。→4期まで - 子育ての不安を聞いて受け止める。→4期まで - 子どもの姿を通して関わりや遊びや育ちなどを伝える。→4期まで - 保護者同士の出会いの場とする。→4期まで	（ねらい）同じ部屋にすることに不安がなくなり、一緒に過ごす。 - 地域の親子の出入りに気付き、離れて見たり、保育教諭と共に近づいて行ったりする。また、知らない人を見ると泣くこともある。	（ねらい）食事の場面や地域交流の場面などで、地域の親子が保育室に訪問してくることに不安がなくなる。 - いつも遊びに来る親子に会うと近づいていく。 - 同じ部屋で、玩具を渡したり、取り合いをしたりしながら、一緒に遊ぶ。

年間指導計画【0歳児・6ヶ月～1歳】

年の目標		A 安心できる保育教諭のもとで、食事・排泄・睡眠などの活動を通して、自分でしようとする気持ちが芽生えてくる。 B 保育教諭と遊びの面白さを共感する中で、玩具や生活に使うものを試しながら、活動や興味が広がっていく。 C 保育教諭との愛着関係の中で、自ら関わりたいという気持ちが芽生えてくる。 D 保育教諭とのやり取りを通して、表情や身振りで気持ちを伝えようとして、日常的に使われる言葉が理解できるようになったりする。			
期		1期(4月～5月)	2期(6月～9月)	3期(10月～12月)	4期(1月～3月)
子どもの姿		- 寝返りで自由に姿勢を変えたり、目的地に移動したりする。 - 座る姿勢になると、座位でしばらく遊ぶ。 - 身近な人を見ると表情やしぐさで嬉しさを表す。 - 人の表情や身ぶりを通して、何となく言葉の意味が分かり始める。 - 人見知りや好きな人の後追いが始まる。 - 見知らぬ人や見慣れない物をじっと見る。 『いや』『な』などがはっきりしてきて、泣いたり、しぐさや声に変化をつけたりして、要求や気持ちをしっかりと出す。	- ハイハイで行きたい所へ移動する。 - 親指と人差し指で小さな物を握む。 - 好きな人というところに着き、自ら関わろうとする。 - 人見知りが始まったり、好きな人を後追いつたりする。 - 友達をじっと見て、笑ったりさわたりする。 「ブー」「マンマ」「ワンワン」など保育教諭の言葉の意味が分かり始める。 - 同じ遊びを繰り返したり、やり取りすることを求める。 - 好きな歌や手遊びの一部を真似たり、体や頭を揺らしたりする。	- 一人で立ち、つたい歩きをしたり、2～3歩歩いたりする。 - 段差を這って登る。 - 両手で物を持って打ち鳴らしたり、片手からもう片方の手に物を持ちかえたりする。 - 好きな人に甘えたり頼ったりする。 - 保育者や友達が遊んでいる姿を見て傍に行ったり真似したりする。 - 指さして要求を示したり、一語文を発したりして、身振りや動作に「ブー」「マンマ」などの言葉が伴ってくる。 - 名前を呼ばれたら自分のことだと分かる。 - 遊びを予測して、実現してもらおうことを楽しむ。 - 絵本に興味を持つ。	- 歩行が安定してくる。 - 小さな物を容器に入れたり出したりする。 - マーカーなどを持って腕を動かして描く。 - 保育教諭の手を引っ張り要求を叶えようとする。 - 保育教諭を介して友達と一緒に遊んだり、物の取り合いもし始めたりする。 - 簡単な日常の言葉がわかり行動しようとする。 - 盛んに一語文を発する。 - 追い掛け回されて遊ぶのが楽しくなる。 - 絵本や紙芝居を楽しむ。
ねらい		A 生活の中でそれぞれのリズムができ、いつも関わる特定の保育教諭に抱かれたり触れられたりすることで、安心し、心地よく過ごす。 B 特定の保育教諭の働き掛けや、興味のあるものに自ら働き掛ける。 C 好きな保育教諭とのやり取りの中で、人と一緒に過ごす楽しさを感じ、人と触れ合うことが心地よくなる。 D 好きな保育教諭とのやり取りの中で、色々な感情を声や全身で表現し、受け止められることの心地よさを感じる。	A 特定の保育教諭に要求を満たしてもらおうことで安心感をもち、次の要求を出そうとする。 B 特定の保育教諭と関わり、触れあう楽しさや玩具で遊ぶ楽しさを知る。 C 安心できる保育教諭がいることで、友達の存在に気付く。 D 好きな保育教諭に喃語を発して気持ちを表現し、要求をしっかりと出そうとする。	A 特定の保育教諭との安心感のもとで、自分でしたいという気持ちが芽生える。 B 保育教諭や友達の模倣を楽しむ中で応答的に遊んだり、その中で繰り返しを繰り返すことで予測する遊びが楽しくなる。 C 安心できる保育教諭との関わりの中で、友達に気付き関わろうとする。 D 保育教諭に対して、気付きや興味を喃語やしぐさで伝えようとする。また、伝わったことを実感しながら保育教諭とのやり取りを楽しむ。	A 安心できる保育教諭のもと、保育教諭の声掛けや動きを見て、見通しをもって動こうとする。 B 行動範囲が広がり、様々なことに興味を持ち関わったり、盛んに試し行動をしたりする。 C クラスの保育教諭に見守られながら、安心して友達に関わろうとする。 D 保育教諭や友達の声掛けや働き掛けに対して、額いたり同じように繰り返したり、発見や要求や思いを声や言葉で伝えようとする。
内容	生活	- 舌を動かして、ごっくんして食べる。 - いろいろな味を知る。 - スプーンの感触に慣れる。	3回食に移行し、手づかみで食べようとする。 - コップを持ち自分で飲もうとしたり、スプーンで食べようとする。	- 手づかみでしっかりと噛んで食べる。 - おまるに座って、おしっこが出たら、保育教諭が嬉しそうにしていることを喜ぶ。	- 手づかみやスプーンを使って食べようとする。 - 友達の真似をして、おまるに座ってみようとする。 - 自分や友達のロッカーが判り、自分でパンツを脱ごうとする。
	遊び	- 布を使って遊ぶ。(被せられた布を取る。) - 大布などを使って揺れ遊びを楽しむ。(こりこり・ふわふわマットなど) - 玩具を使って出し入れしたり引っ張ったりすることを楽しむ。→3期まで - バギーに座って散歩に出掛け、色々な物を見たり触れたりする。 - 泣き方や声に変化をつけたり、体を動かしたりして要求を伝える。	- 自分で布を被って「バー」と遊ぶ。 - ハイハイで動いたり、全身を使ったりして遊ぶ。(布団・室内すべり台) - 保育教諭と絵本を見る。 - 保育教諭の積んだ積み木を倒して遊ぶ。 - 砂に触れる。 - 泣いたり、表情や動作や喃語で要求や気持ちを伝えたりする。 - 保育教諭の言葉掛けを聞こうとする。	- ばい遊びをする。(相手を意識して・相手の顔を見て) - 追い掛けたりと言わんばかりに保育教諭を見ながら逃げる。 - 坂道を登ったり、全身を使ったりして遊ぶ。 - 食べ物の絵本を見て大人に食べさせたり、玩具などで保育教諭とやり取りをしたりして遊ぶ。 - 保育教諭が積んだ積み木を倒したり、砂で作られたものをつぶしたりして遊ぶ。 - 大型バギーで散歩に出掛け、色々な物を見たり触れたりする。 - 身振りや動作、指さしに一語文を付けて、要求や気持ちを伝える。	- 自分から、いないいないばあ遊びをする。 - 好きな保育教諭に追われて遊ぶ。(まてまて遊び) - 楽しんで歩く。 - ボールを投げ遊ぶ。 - カバンの中に物を入れるなど身近な物を使って遊ぶ。 - 身近な玩具を使って保育教諭とやり取りをしたり、真似をしたりして遊ぶ。 - 園周辺を歩いて散歩する。 - 積み木を並べたり、積んだり、倒したりして遊ぶ。 - スコップで砂をすくったり、バケツに入れようとして遊ぶ。 - 言葉やしぐさ・表情で、保育教諭とのやり取りを楽しむ。 - 十分に探索活動ができるよう保育環境を整え、子どもの様子を観て、危険のないよう援助し、遊びの楽しさを共有する。 - スプーンやフォークなどを使って、自分で食べる姿に対して、肯定的に声掛けすることで、自分で食事をする喜びが味わえるようにする。また、子どもの行動に合わせて「もぐもぐ」「ごっくん」などの言葉を添え、咀嚼・嚥下の発達を促す。 - 気持ちを代弁しながら、友達と触れ合う楽しさを感じられるような言葉掛けをする。 『自分でしたい』という子どもの意欲を大切に、やってみようとする姿を支える。
環境構成 保育教諭等の配慮		- 個々に応じた生活リズムで過ごせるようにする。 - 離乳食の食べ具合に応じて、技能員・看護師と連携していく。 - 玩具は必要に応じて消毒する。(洗う・湯拭き・日光消毒)→4期まで - 保育教諭が「ばい」などとして見せたり、布を被せて子どもが取る時に「ばい」と言葉を添えて遊んだりし、興味を引き出す。 - 布・マットレス・積み木ほか、試して遊べる玩具を用意する。(握りやすさ・大きさ・重さなどを考慮する。→4期まで) - 子どもの表情やしぐさから、状況などを聞き掛けたり語り掛けたりし、言葉にして関わっていく。→4期まで - 子ども自身が、受けとめてもらったことを実感できるように、子どもの姿に合わせて、保育教諭が声を出したり真似をしたりする。→4期まで - 一人一人を認める声掛けを周りの子ども達にも意図的にしていく。→4期まで	- ある程度一定の生活リズムで過ごす中で、一人一人が安心して眠れるようにする。→4期まで - 離乳食によって、好きな味や食感がでてるので、個々の様子を見ながら進める。 - 個々に応じて、おむつ型からパンツ型に移行していく。 - 着替えの場所を設定する。→4期まで - 十分にハイハイができるよう広いスペースや時間を保障し、保育教諭が、子どもと同じ目線で楽しむ。 - かくれて遊ぶようなコーナーやスペースを作る。 - 追う追われる遊びでは、保育教諭は「まてまて」などの言葉を添えながら楽しめるようにする。	- 個々の発達の様子や体調に応じて、食材の大きさを変えたり、色々な味に出会うようにしたりする。 - 午睡の後などにおまるに誘い、排泄しやすいタイミングで座らせてみる。 - 自分で服を選ぶなど、子どもが自分で選んだり決めたり、子どもの気持ちを尊重するようこころがける。 - つたい歩きしやすい安全な環境を設定する。	- 朝夕の送迎時に出会う保護者同士が、子どもの姿を見て、子どもの姿や育ちについて話したり、共感したりする場を大切にすること。 - 気の合う保護者に、子育ての中でつらいことや悩んでいることを話せたり、「そうだね」と共感したり、「自分はこうしてみたいよ」と伝えたりできるように、保護者の関係づくりを大切にすること。
保護者支援		- 家庭での食事の様子や、眠り方、生活のペースなどを細かく聞くことで、保育教諭が一人一人の子どもたちの生活を知ることが出来る。 - 一日の様子を伝え、保護者も安心して園に通うことができるようにする。	- 子育てに悩んだり戸惑ったりしていることを、担任に話することができるように、保護者との信頼関係を築く。 - 担任から園での子どもたちの様子を聞いて、子どもがつけた力や育ちを確認したり喜んだりする。	わが子と同じクラスの子どもたちの姿が見えてくる時期なので、クラス懇談会などで、他の保護者と出会い、子ども達の姿や育ちを話したり、子育ての中で感じていることや思いを知り合ったりできるような機会をつくっていく。	
地域支援 地域との交流		(ねらい)地域の触れ合いの場に参加して、担任以外の人々の存在を知る。 - 離乳食の進め方やレシピなどを伝える。→4期まで - 子育ての不安を聞いて受け止める。→4期まで - 子どもの姿を通して関わりや遊びや育ちなどを伝える。→4期まで - 保護者同士の出会いの場となる。→4期まで	(ねらい)同じ部屋にすることに不安がなくなり、一緒に過ごす。 - 地域の親子の出入りに気付き、離れて見たり、保育教諭と共に近づいて行ったりする。また、知らない人を見ると泣くこともある。	(ねらい)食事の場面や地域交流の場面などでも、地域の親子が保育室に訪ねてくることに不安がなくなる。 - いつも遊びに来る親子に会うと近づいていく。 - 同じ部屋で、玩具を渡したり、取り合いをしたりしながら、一緒に遊ぶ。	- 朝夕の送迎時に出会う保護者同士が、子どもの姿を見て、子どもの姿や育ちについて話したり、共感したりする場を大切にすること。 - 気の合う保護者に、子育ての中でつらいことや悩んでいることを話せたり、「そうだね」と共感したり、「自分はこうしてみたいよ」と伝えたりできるように、保護者の関係づくりを大切にすること。

年間指導計画【1歳児】

年の目標		A 保育教諭に十分に甘え、受け止められることが心地よいと感じる中で、自分でやってみようとする。 B 身近なものに興味を持ち、触ったり試したりしながら自分の好きな遊びを見つける。 C 大好きな保育教諭や友達ができ一緒に過ごすことを喜ぶ。 D 保育教諭に見守られながら、自分の思いをしぐさや表情、言葉などで表現する。			
期		1期(4月～5月)	2期(6月～9月)	3期(10月～12月)	4期(1月～3月)
子どもの姿		- 新しい環境に戸惑い、不安で泣く子どもがいる。 - 保育教諭の側で、安心して親しみのあるおもちゃで遊ぶ。 - 自分の思いを保育教諭に泣いたりしてしぐさで出している子どもがいるが、諦めたり我慢したりしてしまふ子どももいる。	- 少しずつ園の環境にも慣れ、安心して生活している。 - 保育教諭や友達と一緒にいることで安心して遊び、盛んに探索活動をする。 - 一人遊びを楽しんでいるが、友達の遊びが気になりたず。 - いろいろな方法で、自分の思いを表現しようとする。 - 自我が芽生え、「自分で」や「いやいや」ということが増えてくる。	- 自分の場所や持ち物、自分のマークが分かってくる。 - 見立て遊びやつり遊びを盛んにする。 - 友達との関わりが増え、トラブル(いさかい・行き違い)や自己主張が多くなる。 - 片言や一語文で伝えようとする。	- 自分でできる事が増え、出来たことを喜ぶ。 - 気の合う友達と一緒に遊ぶことを喜ぶ。 - 泣いたり困ったりしている友達を見て、保育教諭に伝えようとする。 - しぐさや言葉で自分の思いを相手に伝えようとする。
ねらい		A 受け止めてもらえる心地よさ、安心感を体験する。 B 安心してできる保育教諭と一緒に自分の好きな遊びを見つけ、楽しく遊ぶ。 C 大好きな保育教諭ができる。 D 保育教諭に甘えたり頼ったりしながら自分の思いを出そうとする。	A 保育教諭と一緒に身の回りのことをやってみようとする。 B 探索活動や声掛けにより口を拭いたりエプロンを外したりする。 C 顔を見合せて笑ったり、簡単なまねっこ遊びをしたりして楽しみ、友達と過ごすことが心地よくなる。 D 保育教諭に対して自分の思いや要求を、しぐさや言葉で伝える。	A おおまかな生活の流れがわかり、自分でやってみようとする。 B 自分が身近に経験したことを再現して遊ぶ。 C 保育教諭や友達と共感できる遊びを一緒に繰り返して楽しむ。 D 保育教諭が仲立ちとなり、友達に対して自分の思いの伝え方を知る。	A できたことを保育教諭と喜び、またやってみようとする。 B 自分のしたい遊びを保育教諭等や友達と遊ぶ。 C 保育教諭や友達と一緒にやり取りをしながら、遊ぶ事を楽しむ。 D 「いや」「いれて」「一緒だ」などの自分の気持ちを表情・しぐさ・言葉で伝える。
内容	生活	- 保育教諭に手伝ってもらいながら、手づかみやスプーンを持って意欲的に食べようとする。 - 安心して着替え、衣服やパンツを着替えさせてもらうことで、心地よさを感じる。 - 楽しかったことや不安な気持ちを、表情やしぐさで表わし、保育教諭に受け止めてもらうことで安心する。	- 給食が楽しみになり、保育教諭や友達と食べることが楽しい。 - 保育教諭等の声掛けにより口を拭いたりエプロンを外したりする。 - 着替えの時に、保育教諭等に援助されながら、自分でも手足を入れようしたり、穿こうとしたりする。 - おしっこや便が出た時に、じっとしたり、仕草で知らせようしたりする。 - おまるや便座に座ることに慣れる。	- 保育教諭等や友達食べているのを見たり、促されたりして、苦手な物を少しずつ食べようとする。 - スプーンを使って一人で食べようとする。 - おまるやトイレで排泄できることが増えて喜ぶ。 - 保育教諭等の援助を受けながら、自分でしようとするが増える。(パンツや靴を履くなど) - 援助をしようとする「いや」「自分で」と主張することもある。	- 給食のメニューに興味を持って保育教諭等や友達と楽しく食べる。 - 保育教諭等の言葉掛けで生活の見通しを持ち、次の活動を楽しみにする。(食事・外遊びの準備など) - 排泄を知らずしたり、汚れた時に着替えようとする。 - 友達の関わりや保育教諭の言葉かけを受け入れて、やってみようとする。
	遊び	- 保育教諭と気持ちがほぐれる遊びを楽しむ。(きゅうりもみ・いっばんばしこちよこちよなどの触れ合い遊び) - 保育教諭が誘いかけて「はい、どうぞ」「おいしいね」などのやり取り遊びを楽しむ。 - 外遊びを楽しみ、花や虫などに触れる。 - 砂の感触を楽しみ、形になったものをつづりて遊ぶ。 - 簡単な繰り返しのある絵本や簡単な手あそびを楽しむ。	- 保育教諭等と体を使って遊びを楽しむ。(「まてまて」の追いかけてこや「いないいないばあ」のかくれんぼ) - 身近な生活にある品物や人形を使って、生活を再現しようとする。 - 指先を使って遊ぶ。(シール貼りやなぐり描きなど) 水、砂、泥の感触を楽しむ。 - 好きな絵本や手遊び、体操を繰り返し楽しむ。	- 友達と一緒に体を使って遊ぶ。(滑り台・コンビカーなど) - 自分から保育教諭や友達に誘いかけて、追いかけてもらうことを楽しむ。 - 友達や保育教諭と一緒に、言葉のやり取りをしながら再現遊びを楽しむ。(おでかけごっこ、乗り物ごっこなど) - 秋の自然に親しみ(散歩など)、自然物で遊ぶ。(集める、転がすなど) - スコップなどで砂を容器に入れたり、食べ物に見立てたりして遊ぶ。 - 指先を使って遊ぶ(新聞紙を破る、ちぎるなど) - 簡単な曲の一部など、知っているところを歌う。 - 絵本の中の言葉を真似て楽しむ。	- 追いかけてたり追われたりする遊びを、保育教諭や友達と楽しめるようになる。(むつくりくまん・かくれんぼなど) - 触れ合い遊びやたわむれ遊びを友達と一緒に楽しむ。(なべなべ・お船はぎっちらこ) - 体験したことを基に、イメージしたものを見立てたりつりもりになったりして簡単なごっこ遊びを楽しむ。 - 砂で型抜きをして楽しむ。 - 指先を使って遊ぶ。(積み木・ブロック・洗濯バサミなど) - 簡単なストーリーのある絵本を楽しむ。
環境構成 保育者の配慮		- 子ども一人一人の場所や持ち物が分かるような工夫をする。 - 子ども達が安心して生活できるように、戸外で遊んだり、興味を示しそうな絵本、玩具、写真などを用意する。 - 子どもの一人一人の家庭環境や育ちを把握し、食事、排泄、午睡など、それぞれの子どものに合わせ快適に過ごせるようにする。 - 子どもの気持ちを受け止め、思いを返す取り、どうしたいのかを聞いて言葉掛けをする。 - 同じ保育教諭が関わるようにし、安心して関係をつくる。	- 運動遊びや探索活動が危険がなく安全に、のびのびできるように、環境を整える。 - おしっこの感覚が分かるように、布パンツに移行していく。 - 保育教諭等が仲立ちをしながら、「代わって」「かして」など友達との関わり方を知らせていく。 - 自分の気持ちが出しやすいなど、保育教諭等との関係が密になるように、少人数で活動する時間を作る。 - 褒めたり励ましたりしながら、自分で何事もやりたいと思えるようにする。 - こまめな水分補給を心掛ける。 - 自分なりにアピールしていることを受け止めたり、「いや」が言えているかを見たりしていく。 - 一人一人の子どもの、どの子どもを気にしているかなど、子ども同士の関係性を把握する。 - 感触遊びが苦手な子どもも楽しめる工夫をしていく。	- 子ども達で再現遊びができるように必要な物や量を揃えたり、コーナーを作ったりする。 - いろいろな素材を使って遊べるような環境を整える。 - 友達同士のトラブル(いさかい・行き違い)が増える時期なので、お互いの関わり方に注意を払い、気持ちを受け止めながら仲立ちしていく。 - 子どもの相互の関わり方に注意を払い、事故防止に努める。 - できたことを一緒に喜び合い、意欲につなげる。 - 個々の興味を捉え、クラスみんなでも楽しめるような遊びをなげかける。 - 自己主張する思いを大切に受け止めながら、気持ちを切り替えられるように声掛けをしていく。	- 好きな友達ができたり一緒に遊んだりする姿が見られるので、複数で遊ぶことができるように玩具をそろえる。 - イメージがふくらむように必要なものを準備する。 - 自分でしようとする意欲を大切に、できる喜びや、達成感を共感しながら、自信につなげていけるようにする。 - 自分の気持ちを表現できるように保育教諭等が言語化する。 - 困っている子どもや泣いている子どもに「どうしたの」と一緒に関わり、友達の思いに気づいていけるようにする。 - 子ども同士でつながっていけるように仲立ちをしていく。 - 困っている子どもや泣いている子どもに気づくことができるように「どうしたの」と一緒に関わっていく。
保護者支援		- クラス懇談などで、子育ての悩みや話を共有できる場を設ける。 - 一歳児の発達や特徴を伝え、見通しをもって子育てができるように支援していく。 - 保護者が安心して子どもを預けられるように、日々のコミュニケーションを大切に、連絡を密にとることで、信頼関係を築く。	- 子ども同士の関わりを壁新聞などで伝えながら、保護者同士が知り合うきっかけにする。 - 着替えや食事の時など、身近な大人の真似をしたり、自分でやろうとしたりする姿が出てくるので、その気持ちを大切に、見守ってもらえるように保護者とともに、連携していく。	自我が強く表れるこの時期を、温かく見守ることを大切にしていけることを保護者に伝え、成長の過程を共感し合い、保護者が安心して子育てできるようにする。	- 一年の子どもの成長を感じ、認め合い子育ての喜びを共有しあう。 - 保護者同士で悩みなどの話ができる関係をつくっていく。(一人でも話せる人がいる)
地域支援 地域との交流		園庭に遊びに来ている地域の子どもの子どもや保護者に、保育教諭が声をかけることで関わりを感じて、在園児も安心して遊べるようにする。	- 在園児が地域のサークルなどに参加し、一緒に遊べるようにする。 - 地域の人達に、保育室へ入ってもらい、同年齢の子どもの様子を知ってもらうようにする。	地域の人と一緒に参加する行事を設けて、交流する。	在園児と地域の子どもの関わりを持てるような遊びを提供していく。

年間指導計画【2歳児】

年の目標		A 安心できる保育教諭のもとで、身の回りのことを自分でしようとする。 B 自分の好きな遊びを見付け、繰り返し遊ぶことを楽しむ。 C 保育教諭や友達に思いを出し、自分から関わりを持とうとする。 D 見立て遊びやつもり遊びを通して、保育教諭を仲立ちとした言葉のやり取りを楽しむ。			
期		1期(4月～5月)	2期(6月～9月)	3期(10月～12月)	4期(1月～3月)
子どもの姿		- 新しい環境の中で、不安や戸惑いを見せながらも、少しずつ保育教諭との関係ができ始め、安心して過ごす。 - 保育教諭と関わりながら安心して好きな遊びを見付け、同じ場所で遊ぶ友達と関わっていく姿がある。 - 何でも「いや」と言い、「自分で…」と自己主張し、自分の思いどおりにならないと泣いたり怒ったりする。	- 生活のリズムが分かり安定して過ごす。 - 保育教諭や友達のまねをし、同じことをしたりして遊ぶ。 2～3人の友達と遊ぶ姿が見られるが、物の取り合いなどで叩いたり、ひっかいたりする姿が見られる。	- 身の回りのことを自分でしようとするが、時には、手伝ってほしいという甘えたい気持ちを出す。 - 全身を使った遊びや、手指を使う遊びを楽しむようになる。 - 見立て遊びやつもり遊びが楽しくなり、保育教諭を仲立ちとして言葉のやり取りが増える。 - 自分で何でもやろうとする気持ちが育つが、思うようにできないと癪癪を起す。周りの友達に関わっていくが、思いをうまく伝えられずトラブルになることも多い。	- 保育教諭に見守られる中で、身の回りのことを自分でしようとする。 - 言葉が増えてきて、自分の要求や身近な出来事などを言葉で伝えようとする。 - 保育教諭が仲立ちする中で、見立て遊びやつもり遊び、簡単なルールのある遊びが楽しくなる。 - 友達との関わりが増える中、自分の思いを通そうとすることもあるが、通らない時でも自分なりに何とかしようとする姿が見られるようになる。
ねらい		A 保育教諭に不安や要求を受け止めてもらい、少しずつ新しい環境に慣れる。 B 保育教諭と関わりながら、安心できる場所や好きな遊びを見付ける。 C 何でも嫌と表現してしまう姿を受け止めてもらうことによって、情緒が安定する。 D 自分の思いを仕草や言葉で伝えようとする。	A 生活の流れが分かり、保育教諭に手伝ってもらいながら身の回りのことをやってみようとする。 B 好きな遊びを自ら選んで繰り返し楽しむ。 C 自分の思いを保育教諭に受け止めてもらい、保育教諭と一緒に思いを友達に伝えたり、友達と関わったりする。 D 友達とまねをし合って遊ぶことが楽しく感じ、好きな遊びが増える。	A 自分でしたい・手伝ってほしいなど、思いを出しながら身の回りのことをしていきようとする。 B 気の合う友達を誘って好きな遊びを楽しむ。 C ぶつかり合いの中でお互いの思いを保育教諭に受け止めてもらい、相手に思いがあることを知っていく。 D 生活の再現遊びを、保育教諭を仲立ちとして友達と楽しむ。	A 安心できる保育教諭に見守られ、身の回りのことを自分でしていく。 B 自分の好きな遊びを見付けじっくり楽しんだり、友達と誘い合って遊んだりする。 C 自己主張しながらも、物の取り合いなどトラブルの時は、自分なりに何とかしようとする。 D 保育教諭を仲立ちとして、友達とつもり遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ。
内容	生活	- 自分の食の好きを保育教諭に聞いてもらい、安心できる雰囲気の中で食事をする。 - 手伝ってもらいながら着替えて、着替えた後の心地良さを感じる。 - 保育教諭と一緒にトイレに行き、排泄することに慣れてくる。 - 自分の場所(ロッカー・座席など)が分かり、安心して過ごす。	- 保育教諭とのやり取りの中で、食事の終わりを自分で決め片付けをする。 - 手伝ってもらいながら、衣服や靴の着脱を自分でやってみようとする。 - 日中はパンツで過ごし、濡れたら気持ち悪いという感覚が分かる。 - 生活の流れが分かり、安心して過ごすようになる。	- 自分でお箸やスプーン、フォークを選んで食べる。 - 保育教諭の手伝いをする楽しさを知る。(食器の配膳など) - 自分でしたい・手伝ってほしいなど、思いを出しながら衣服や靴の着脱をしようとする。 - 友達同士、意識し合い、誘ったり誘われたりすることがうれしいと感じる。(食事の挨拶や手遊び・歌をみんなの前で歌うなど)	- お箸を使ってみようとする。 - 苦手な食べ物も、保育教諭や友達が見て、自分も食べてみようとする。 - 保育教諭の手伝いをするのがうれしいと感じ、積極的に手伝おうとする。 - 保育教諭に見守られ、身の回りのことを自分でしていく。 - 友達と手伝い合う。(衣服の着脱の際に長袖を引っ張る・肩のボタンを留めるなど) - グループの友達のことが分かり、自分から関わろうとする。
	遊び	- 保育教諭と触れ合い・たわむれ遊びをし、心や体がほぐれる。(「まてまて」と言いながら追いかけられる遊び・隠れて「ばあ」と出てくる遊びなど) 「どうぞ」「ありがとう」などのやり取りを楽しみながら、保育教諭と見立て遊びやつもり遊びをする。(靴を持って出かけ など) - 作ったり壊したりすることを楽しめる感触遊びをする。(水・砂・泥 など)	- 安心して保育教諭に身をゆだねて遊んだり、保育教諭と一緒に友達と触れ合い・たわむれ遊びをしたりする。(シーツブランコ・お舟はぎっちゃん・追う追われる遊び など) - 保育教諭と一緒に再現遊びをする。(家族・先生・お医者さん・動物 など) - 道具やいろいろな物を使って繰り返し遊ぶ。(積み木・型ぬき・水の入れ替え・泡遊び など)	- 全身を使った遊びをする。(歩く・走る・跳ぶ・飛び降りる・ぶら下がる・押すなど)(巧技合・手押し車 など) - 保育教諭や友達と再現遊びをする。(買い物ごっこ・人形を赤やんに見立てた遊びなど) - 手指を使って繰り返し遊ぶ。(ちぎる・握る・押さえる・引っ張る など) - 自分なりのイメージを持って作ったり、描いたりする。(はさみの一回切り・線や丸を描く)	- 保育教諭や友達と簡単なルールのある遊びをする。(あぶくたつ・むっくきくさん など) - 友達と触れ合い遊びやたわむれ遊びをする。(追う追われる遊び・隠れて「ばあ」と友達をびっくりさせる遊び など) - 生活経験や繰り返しのあるお話を基にごっこ遊びをする中で、役になりきって保育教諭とのやり取りを楽しむ。
環境構成 保育者の配慮		- 一人一人の好きな遊びを把握し、園庭や保育室の中にそれぞれの好きな遊びが楽しめるように環境を整えていく。 - 自分の持ち物や場所が分かるように工夫する。 - 一人一人の甘えや不安、欲求を細やかに受け止めて安心して過ごせるようにする。 - 一人一人が満足して遊べるように、玩具の数を十分に揃える。	- 自分の思いを安心して出し合えるように、少人数の関わりを大切にすること。 - 全身を使った遊びを繰り返し経験できるように、ゆったりとした時間や空間を用意する。 - 自己主張や依存したい気持ちをしっかりと出し、伝えようとする姿を大切にすること。 - 一人一人の育ちを丁寧に把握しながら関わる。(食事・排泄など)	- 友達関係が広がるように、少人数のグループを作る。 - 保育教諭も子どもと一緒に再現遊びを楽しみながら子どものイメージを引き出していく。 - 保育教諭にしてもらいだけでなく、子ども同士が手伝い合う中での関わりを大切にいく。 - 子ども同士がごっこ遊びを楽しめるようなコーナーを用意し、友達同士でやり取りができるような環境を整える。 - 見立てで遊べるようないろいろな素材を用意する。	- 一人一人の生活経験を大切にし、子ども達と一緒に遊びに必要な物を作る。 - それぞれのイメージがつながるように、保育教諭と一緒に遊びを展開していく。
保護者支援		- 友達との関わりを中心とした園での様子を丁寧に伝えていきながら、共に育てているという姿勢を知らせていく。 - 保育教諭や友達との関係の中で、子どもの集団の中における姿を知らせていく。	- 表現の仕方は一人一人違いがあり、一つ一つの行動には必ず理由があることを保護者と共に考え、子ども理解を深めていく。 - 保護者の悩みや思いに向き合い、傾聴する。	- 子ども達はぶつかり合い、自分の思いを出しながら仲間の中で育っていくことを実践を通して伝えていく。 - 子ども同士の関わりを伝え、保護者同士をつないでいく。	子育ての話を深める中で、大人もつながっていくことの心地良さを感じていけるようにする。
地域支援 地域との交流		散歩先で出会った人や、園庭開放で訪れた地域の親子が親しみを持てるように積極的に挨拶をする。	- 地域の未就園児と交流を持つことで、顔見知りになる。 - クラスで遊んでいる様子を見せようとして、一緒に参加して楽しんでみたいと思うような雰囲気を作る。 2歳児の自分の思いの出し方(表現の仕方)を知らせる。	- 地域の未就園児と一緒に遊び、親しみを持つ。 - 子ども達が互いに思いを出しながら様々な事に気付いていることや、子ども同士のぶつかり合いの大切さを知らせる。 - ぶつかり合いをすぐに止めるのではなく、それぞれの子どもの思いに気付いていけるような言葉で掛ける。	- 地域の公園や園庭等よく出会う未就園児やその保護者に親しみをもち、関わっていくこととする。 - 保護者同士が、声を掛け合い子どもを見守っていけるように、一緒に子どもを見たり言葉で掛けたりする。

年間指導計画【3歳児】

年の目標		A 保育教諭等に見守られている安心感の中で、毎日の生活の見通しが持てるようになり、自分でできることが増えたり、友達と一緒に協力しようとしたりする。 B 保育教諭等や友達とのやり取りを楽しみ、けんかをしたり、順番や交代を経験したりして一緒にいろいろな遊びをやってみようとする。 C 自分のやりたいことや好きなことがあり、気持ちや感じたことを周りに伝え、保育教諭等の仲立ちで自分や友達の気持ちを知る。 D さまざまな表現のしかたを経験し、言葉や身振りなど自分なりに気持ちや思いを伝えようとする。			
期		1期(4月～5月)	2期(6月～9月)	3期(10月～12月)	4期(1月～3月)
子どもの姿		・いろいろなものに興味を示し、目新しいものに触れて次々と遊びを変えていく。 ・大人の干渉を好まなくなり、何でも自分でやりたいという気持ちが高まってくる。 ・小さい子どもの世話や手伝いをしたがる。 ・身近な大人や友達には関わることが、親しみのない友達に対しては、あまり関わろうとしない。 ・遊びの中で持っているイメージは違うが、一緒にいることが楽しく、それぞれのイメージで遊ぶ。	・ほめられると素直に喜び、そのことが意欲や自信につながる。 ・生活の場面で、何でも自分でしようとする。 ・自分なりのイメージで、身近な人になって遊ぶ。 ・身体を動かして遊ぶ事が楽しくなり、いろいろなことに挑戦する。(雲梯、ポール、三輪車など) ・遊びを通して好きな友達ができ、誘ったり誘われたりする。 ・友達と関わるが自己主張が強くトラブルが増える。	・活発になり友達と一緒に体を動かして楽しんでいる。 ・簡単なルールが分かってくる。 ・友達と意思の食い違いからぶつかり合いが起こる。 ・経験したことや感じたことを保育教諭に伝える姿が多く見られるようになる。 ・当番をして保育教諭等や友達に喜ばれることに嬉しさを感じる。 ・友達が泣いていたり、けんかをしていたりすると、気が付いて声を掛ける。	・簡単なルールを分かって遊べるようになるが、葛藤もある。 ・2～3人で誘い合い、共通の簡単なイメージを持って遊ぶ。 ・けんかの際、自分の気持ちや思いを言葉やしぐさで伝える。(「かして」、「かわって」など) ・いろいろな友達に関わる。 ・友達のことが分かり、その子ども同士のやり方を理解して関わる。
ねらい		A 衣服の着脱や、排便の後始末など、保育教諭と一緒にする。困っている友達の手伝いを保育教諭等と一緒にする。 B 保育教諭等と遊ぶ事を楽しむ。 C 保育教諭と一緒に追ったり追われたりすることを繰り返し楽しむ。 D 自分のイメージでごっこ遊びを楽しむ。 E おもしろそうな遊びを見つけると真似して遊ぼうとする。 F 不安な気持ちや、困っていることを保育教諭に自分なりの方法で知らせる。「入れて」「かわって」など、生活や遊びに必要な言葉を保育教諭と一緒に使う。	A 少人数で給食当番などを経験し、グループで生活することを楽しむ。 B 好きな遊びを見つけ、友達や保育教諭と楽しむ。 C ごっこ遊びで、自分の好きな役になりきって楽しむ。 D 友達の真似をして生活やいろいろな遊びをやってみようとする。 E 保育教諭と一緒にしぐさや言葉を使って、友達とやり取りをする。	A 身の回りのことは、ほとんど自分でしようとする。 B 友達と関わって生活や遊びを行う中で順番を守ったり、交代したりできる。 C 保育教諭等と一緒にやり取りをすることで、身近な友達のいろいろな気持ちに気付く。 D 保育教諭等の仲立ちで、友達に自分の気持ちをしぐさや言葉で伝え、トラブルを解決していく。 E 遊びの中で身振り、声の調子などいろいろな表現の仕方を経験する。	A 繰り返し経験したことから生活の見通しを持ち、自信が持てる。 B 友達と協力して当番活動を楽しむ。 C 繰り返し遊ぶ中で、自信のある遊びを見付ける。 D 簡単なルールを友達と共有して遊ぶことを楽しむ。 E 自分と友達とのやり方の違いを知り、真似したり、一緒にごっこ遊びを楽しんだりする。 F 言葉やしぐさを交えて友達と関わり、友達の気持ちを聞こうとする。 G 身体を使った表現を楽しみ、いろいろな表現方法を知る。
内容	生活	・保育教諭等の手伝いをする。 ・保育教諭と一緒に友達の遊びに加わり、一緒に活動する。 ・自分なりの食べ方で、楽しんで食べる。	・少人数で、給食の食器を配る当番をする。 ・「入れて」「かわって」など、保育教諭と場面に合った言葉を使って遊ぶ。 ・友達の姿を見て箸を使う。	・グループの友達に給食を配る。 ・保育教諭がけんかの仲裁をする中で、互いの思いを出し合う。 ・身の回りのことを自分でしようとする。	・友達とやり取りをしながら当番活動をする。(給食当番では「もつ」と入れて「減らして」など) ・けんかに気付き、保育教諭と一緒に関わって解決しようとする。 ・毎日繰り返し行う身の回りのことについては、見通しを持って自分でする。(着替え、歯磨きなど)
	遊び	・保育教諭と一緒に追いかけて遊ぶ。 ・身近な人や動物などになりきってごっこ遊びをする。 ・砂場で砂の感触を楽しむ。(型ぬき、団子) ・はさみやのりの使い方を覚える。	・保育教諭や友達と鬼ごっこをする。(簡単なかくれんぼ・しっぽ取りなど) ・運動道具を使って遊ぶ。 ・友達を意識しながら、経験してきたごっこを2～3人で楽しむ。(お家ごっこ、お医者さんごっこなど) ・全身で水遊びや泥んこ遊びをする。	・簡単なルールを知り、保育教諭や友達と鬼ごっこをする。 ・身近で簡単なごっこ遊び(生活再現)の中で、ある程度共通のイメージを持ち、なりたい役になって遊ぶ。 ・いろいろな素材を使って自分なりに作り、作った物を見立てて遊ぶ(砂、粘土、紙) ・友達が作っている物を真似する。	・順番や役割交替など簡単なルールのある遊びを4～5人でする。 ・ごっこ遊びで役割を意識して自分の思いを主張する。 ・経験したことや絵本のイメージで友達と遊ぶ。 ・友達と一緒に作り、作った物で遊ぶ。(ブロック、トンネルなど)
環境構成 保育教諭等の配慮		・追う人、追われる人がわかるようにお面などを用意する。 ・追いかけて遊べるような広い場所の設定をする。 ・イメージが持てるような絵本やごっこ遊びの設定をする。 ・追われる楽しさがわかるように保育教諭からなげ掛け、繰り返し追いかけて遊ぶ。 ・遊びが見つけられない子どもには、誘ったり、その子どもが何を楽しんでいるのかを観察したりする。 ・好きな遊びが見つけられるように、コーナーを作り、子どもが自由に選んで遊べる環境を用意する。	・給食当番活動では、食器を置く場所にシールを貼るなどして分かりやすくしておく。 ・おうちコーナーやごっこ遊びに必要な小道具を子ども達と一緒に用意する。 ・保育教諭等が間に入り、順番や交代を知らせる。 ・給食当番で自分の配りたいものが友達に言えているかなど、気を付けて見ていく。 ・プール遊びでは、一人一人の水の慣れ具合を考慮し、その子どもに応じた配慮をする。	・当番の表示をわかりやすいように工夫する。 ・鬼がわかるよう、帽子の色で区別したり、お面を用意するなど、工夫する。 ・いろいろな遊びが楽しめるよう、材料や用具を用意する。 ・いろいろな遊びが楽しめるようなコーナーを子どもと一緒に設定する。 ・身の回りのことを自分でできるように、見通しが持てるような言葉掛けをする。 ・一人一人の長所を知らせる。 ・イメージを持ちにくい子ども、ルールがわかりにくい子どもには、保育教諭と一緒に遊び、友達と遊ぶ楽しさが感じられるようにする。	・当番活動がしやすいように配膳台の位置を考える。 ・身体を動かして遊べるような場をつくる。 ・ごっこのイメージが持てるように写真や絵本など用意して子どもがいつでも見ることができるようにする。 ・友達と協力して作ることができるように、ブロックなどは十分に用意する。 ・子どもの考えや関わりを見守るようにし、自分達で考えて行動する姿を認め、周囲の子どもに知らせる。 ・保育教諭等と一緒に遊ぶ中で、遊びのヒントを提示する。 ・自信のある遊びがあるか、自分の思いが出ているかを把握し、必要な子どもについては援助をする。
保護者支援		・子育てで不安がある保護者の気持ちを受け止め、話せる雰囲気を作る。 ・保護者が安心できるように話す機会を作り、子どもの様子を伝える。 ・子どもの姿から、課題を保護者と共有できるように家庭での様子や困っていることなど聞いていく。	・子ども同士の関わりを普段の話や壁新聞などで知ってもらう。 ・保護者と信頼関係ができ、安心して自分の子どもの話ができるようにする。	・行事を通して一人一人の子どもの成長や集団の様子を伝える。 ・また、保護者とともに子どもの成長について喜びを分かち合う。	・進級に向けて育てたいことや育ってきたことなどを保護者と共有できるように懇談の場を設定する。
地域支援 地域との交流		・公園や園に遊びに来た地域の親子に挨拶をしたり、交流を持つたりする。	・地域と交流を持つことで、地域の子どもの様子や顔見知りになる。	・地域の子どもの保護者と一緒に遊ぶ。	・地域の公園や、園庭などでよく出会う未就園児や、その保護者に親しみをもち、挨拶をしたり、一緒に遊んだりする。

年間指導計画【4歳児】

年間の目標		A いろいろな活動の中で、十分に体を動かして遊び、またやりたいという思いを膨らませる B 自分なりに納得のいくまでやりきり、満足感を味わう C 自分の思いを伝えるときにも、友達の思いにも気づき分かろうとする D 経験したことや思ったこと、感じたことを言葉で相手に伝えようとする			
期		1期(4月～5月)	2期(6月～9月)	3期(10月～12月)	4期(1月～3月)
子どもの姿		- 新しい環境の中、不安や緊張が見られる - 保育教諭との関わりを求め、一緒にいることで安定する - 身の回りの環境に興味を示し、自分の好きな遊びを見つけたり、気の合う友達と遊んだりする - 身の回りのことはほとんど自分でできたり、しようとするが、個人差が大きい。	- 生活の流れや仕方が分かり、安定した気持ちで生活できるようになり、身の回りの事をほとんど自分でしようとする - 友達や保育教諭の遊びに興味を持ち、やってみようとする - 気の合う友達ができ一緒に遊ぼうとするが、自分の思いをうまく伝えられないことからぶつかり合いも増える	- 仲間意識やクラス意識が育ってきて、協力して取り組む活動が少しずつできるようになる - 友達と協力し合いながらルールのある遊びを楽しむ - 感じた事や考えたことを様々な方法、自分なりの表現で表そうとする - 季節の自然に親しむ中で自然の不思議や面白さに気づき、数・量・形の変化にも気づくようになる - 困っていること、おかしいと思うことに気づく - 周りが見えてくることで、自信をなくす姿も出てくる	- 興味や関心があることに取り組み、自分なりに工夫したり表現したりする姿が見られる - お互いの思いやイメージしたことを伝え合いながら、遊びを楽しめるようになる - 意見の衝突やトラブルの中で、自分の思いを伝え相手の思いも分かってくる
ねらい		A 安心して過ごす中で、身の回りのことが自分でできるのが嬉しいと感じる B 保育教諭等や友達と一緒に遊ぶのが楽しいと感じ、好きな遊びができる C 好きな保育教諭等や友達に自分の思いを出し、受け止めてもらって喜びを感じる D 生活や遊びの中でいろいろなものに興味・関心を持つ	A 生活に見通しができるようになり、自分でやってみようとする意欲を持つ B 気の合う友達を誘い合って遊びを進めていくようにする C 友達のよいところを知り、違いにも気づいていく D いろいろな表現の仕方があることを知り、やり取りを楽しむ	A 自分ですることや、手伝ったり手伝わってもらったりする友達との関わりを楽しいと感じる B ルールのある遊びの楽しさを知る C いろいろな思いがあることを知る D 遊びの中で友達とイメージを共有して楽しむ	A いろいろな活動に興味をもち、力いっぱい遊ぶようになる B 自分なりの目当てや見通しをもって行動する C 自分の思いを出すとともに、保育教諭等を介して友達の思いも知り、よりよい方法や進め方などを考えようとする D 自分の思ったことや感じたこと、経験したことを言葉やいろいろな表現で伝えようとする
内容	生活	- 身の回りの始末の仕方を知り、やってみようとする - 身近な動植物に興味や親しみを持つ - 保育教諭等や友達と一緒に楽しく食べる	- 安全な生活の仕方を身に付ける - 身近な動植物に触れたり、栽培したりすることを通して生長や命、自然の変化に興味、関心を持つ - 食事に必要な習慣や態度を知る	- 生活や遊びに必要な言葉やその使い方を知り、保育教諭や友達と当番活動などを楽しくする - いろいろな食べ物について興味を持つ	- 子ども同士で思いを伝え合い、自分達の生活をめめようとする(当番活動など) - 自分の健康に関心を持ち、苦みな食べ物も食べてみようとする
	遊び	- 保育教諭等や友達と触れ合いや簡単なやり取りをして遊ぶ(日常の挨拶、なべなべこめけ、おいかけっこなど) - 身近な生活を取り入れて友達と一緒にごっこ遊びを楽しむ - 自分のしたいことや困っていることを、保育教諭等や友達にも伝えようとする - 身近な素材・用具・道具や周りの自然に興味を持ち、見たり触れたりする(さら砂作り・虫探しなど)	- 簡単なルールのある鬼ごっこを楽しむ(追う追われる・増え鬼など) 2～3人で役割を決め、ごっこ遊びを楽しむ(お家ごっこ、探検ごっこ、忍者ごっこなど) - 自分の感じたこと思ったことなど経験したことを身ぶりや言葉で伝えようとする(嫌だ、おかしいなど) - 土や砂、水の感触を味わいながら、自分なりに試したり発見したりして楽しむ(泥だんご作り・色水遊びなど)	- 交代・役割分担のある鬼ごっこを楽しむ(こり鬼・鳥鬼など) - 絵本や紙芝居、童話などに親しみ、イメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむ - 自分のやりたいと思ったことに取り組み、繰り返し試したり作ったりする(秋の自然物を使って・ごっこ遊びに必要なもの など)	- 鬼ごっこを誘い合って始めたり、自分達でルールや作戦を進めようとする - 友達とイメージを共有しながら、役になりきって遊ぶ(劇遊びなど) - ストーリーを保育教諭や友達と一緒に考え、役になりきって遊ぶ - 目的に向けて、方法を考えたり、工夫したりしてやり遂げようとし、実現できた喜びを感じる
環境構成 保育教諭等の配慮		- 身の回りのことを自分でできるよう、生活の流れや物の置き場所などを写真や絵で示し、分かりやすいようにする - 好きな遊びを楽しめるように、興味を示しそうな遊びのコーナーを用意したり、用具を自分で選べるなど、環境を整えたりする - スキンシップを取ったり言葉を交わしたりして一人一人の気持ちを受け止め、安心して過ごせるように信頼関係を築いていく - 自分の思いをうまく伝えられない子どもには、表情や態度から思いを読み取り代替する丁寧に関わる - 遊ぶ楽しさが味わえるように、保育教諭等と一緒に遊んだり、友達と一緒に遊ぶ時間や場所を十分に設けたりする	- いろいろな感覚遊びが楽しめる場を整え、進んで遊びだせるようにする - 友達との関わりが持てるように、ペアやグループ活動などを積極的に取り入れる - 一人一人の楽しみ方を十分に認め、面白いくところやよいところを周りの子どもに知らせる - トラブルが起きた時は、それぞれの気持ちを聞き、お互いが納得でき遊びが続けられるようにしていく - 動植物に関わる中で、生きていることや命の大切さに気付くような声掛けをしていく - 子どもの気持ちや発見に共感し、遊びに意欲が持てるようにする	- いろいろな遊びを展開できるよう材料や用具を用意する - 一人一人の遊びや興味の変化を把握して、環境を再構成する - 子ども同士が話し合う中で一人一人の思いを聞いたり、伝えたりできるように仲立ちしていく - 友達の思いに気付けるようにやり取りを大事にしていく - グループの中で入れない子どもが認められていくように、仲立ちをしていく	- 興味のあることを追求したりイメージを実現できるよう場や用具を用意する 5歳児と交流できる場の設定を考え、遊びや生活、仕事などの引き継ぎができる機会をもち、進級する期待につなげる - 自分なりに目当てをもって取り組む姿を認め、必要に応じて援助し、充実感や達成感を味わえるようにする - 友達との関わりの中でアイデアを認め合えるよう援助し、それぞれの子どもが自己発揮できるようにする
保護者支援		- 送迎時などの機会を利用して話をし保護者の方との信頼関係を築いていく - クラスだよりなどで園や子どもの様子が保護者に分かりやすいように具体的に知らせ、安心感や理解につながるようにする - クラス懇談会や行事など、保護者同士が知り合っていく機会を作る	- 具体的な子どもの姿を伝える中で、自己主張やトラブルなども発達段階の姿であり、成長の機会であることを知らせ、一緒に考えていく関係作りをする - 保護者同士の交流がもてるように、保育参観などの機会を設ける	- 保育参観、保育参加、行事などを通して子どもの成長を知らせ、子ども理解を深める - 子ども同士の関わりを伝え、保護者同士のつながりがうまれるよう仲立ちをする	- 子どもの成長の姿や子ども達の関係を具体的に伝え、成長の喜びを共有する - 次年度にむけての話をできる機会をもち、進級への期待を持てるようにしたり課題を共有したりする
地域支援 地域との交流		地域の子どもやいろいろな人と出会い、挨拶や会話をし親しみを持つ	地域の交流で触れ合うことを楽しみにしていく	地域の人達と関わりあう中で喜びや自信が持てる	- 地域の人達と自分から関わろうとする - 地域の人とつながり、いろいろな世代の人と交流し、人との関係が豊かになる

年間指導計画【5歳児】

年の目標		A 体を存分に動かして遊ぶ心地よさを感じながら取り組み、充実感を味わう B 友達と一緒に共通の目的を持って活動をするおもしろさや満足感を味わう C 一人一人の違いを認め合い、互いを大切にしようとする D 友達と活動する中でイメージを膨らませ、心を通わせて遊ぶ楽しさがわかる			
期		1期(4月～5月)	2期(6月～9月)	3期(10月～12月)	4期(1月～3月)
子どもの姿		- 環境が変わり不安や戸惑いもあるが、年長児になった喜びや期待を持っている。 - 数人の友達で集まり、好きな遊びを思い思いに楽しんでいる。 - はききって身の回りのことをやってみようとするが、思い通りにならない時もあり、安定の場を求めることもある。	- 一日の生活の流れが分かり、自分から行動しようとする。 - 友達の姿に刺激を受け、自分なりのやり方で試そうとする。 - 自分の思いを自分なりに出していくが、思いが伝わらず、ぶつかり合うことも増えてくる。 - 気の合う友達とのやり取りを楽しんだり誘い合ったりしている。	- 友達がいるから自分もやってみよう、意欲を持って取り組む。 - 共通の目的を持ち、力を合わせて役割を分担したりしながら取り組む中で、仲間意識が高まっていく。 - 周りの友達の様子が見えるようになり、その子なりのいろいろな姿を認める。 - いろいろな経験をする中で、互いの気持ちや考えを言い合いながら相手にも思いがあることに気づき、解決しようとする。	- 生活や遊びの中で、一人一人が自信を持って自分の力を発揮している。 - 小学校就学に向けての期待や喜びを持っているが、新たな生活に不安を感じている子どももいる。 - 自分達で遊びのルールや役割を考え、見通しを持って生活や遊びを作っていく。 - 自分達なりに折り合いをつけながら、目的を持って友達と一緒にやり遂げようとする。
ねらい		A 保育教諭等や友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。 B 新しい生活や環境に慣れ、好きな遊びを見つけてもつとやりたいと意欲を持つ。 C 友達と関わる中で発見を伝えたり一緒に喜んだりする。 D 経験したことや考えたことを自分なりの方法で表現する。	A 様々な活動や友達の姿に興味関心を持ち、心弾ませ進んで取り組もうとする。 B いろいろな経験の中で、友達と見たり試したり考えたりして遊ぶ。 C 友達のいろいろな姿に気づき、声を掛け合ったり誘い合ったりする。 D 気の合う友達と一緒にいろいろな方法で表現することを存分に楽しむ。	A 動まじり動まされたりする中で自信を持ち、自分の力を発揮しようとする。(当番活動など) B 自分の思いを言い合い、友達と協力したり工夫したりして遊びを進め、楽しさを共有する。 C 自分の気持ちを出しながらも友達の思いや考えに共感し、譲り合ったり折り合いをつけたりする。 D イメージを共有しながら考えたことを遊びの中で実現し、いろいろな表現を楽しむ。	A みんなで活動することの心地よさを経験し、充実感を持つ。 B 目的を持ち、みんなで最後までやり遂げた達成感を味わう。 C 友達のいろいろな姿や思いを認め合い、互いの立場や状況を大切にしながら共に過ごす。 D 友達や保育教諭等の思いを聞いたり、自分の考えを言ったりしながら、共通のイメージを膨らませ表現する楽しさを味わう。
内容	生活	- 新しい生活の中で自分の気持ちや要求を保育教諭等に聞いてもらい、安心して過ごす。 - 生活する中で決まりや危険な場所が分かり、安全に過ごそうとする。 - いろいろな当番活動があることを知り、友達と楽しんでいる。 - 食事の約束事を守り友達と楽しく食べる。 - 年長になった喜びを感じながら、年下の友達に優しい気持ちを持って関わり世話をしようとする。	- グループの中でしたい役割をどの子どもも言えて、保育教諭等と一緒に調整しながら決めていく。(当番活動など) - 身近な生き物や植物に興味を持ち、世話をしたり収穫したりして命の大切さを知る。 - 自分が食べられる量が分かり、保育教諭等に伝える。 - 生活や遊びの中で年下の友達と関わりながら、どのように接していったらいいかを考える。	- お互いの意見を出し合い、どうしたらうまく活動できるのかを工夫していく。(当番活動など) - 食べることが体を作っていることに気づき、食の大切さを知る。 - 公共の場での行動の仕方を理解して動かそうとする。 - 年下の子どもと接する中で頼りにされていることをうれしく思い、自信になる。	友達の意欲や頑張っているところを認め役割を公平に決めていく。(当番活動など)
	遊び	- 気の合う友達や保育教諭等と一緒に、簡単なルールのある遊びを楽しむ。(うずまきジャンケン、あぶくたなど) - 触れ合い遊びを通していろいろな友達と親しむ。 - 曲に合わせて歌ったり、踊ったり、リズム遊びをしたりして音楽に親しむ。 - 同じイメージを持った友達と場を共有しながらごっこ遊びを楽しむ。 - いろいろな素材を使って、自分なりのイメージに合わせてかいたりつくったりする。 - 身近な自然に親しみ、世話をしたり遊びに取り入れれたりする。	- 友達と一緒に水の中で全身を使ってプール遊びを楽しむ。 - 簡単なルールのある遊びの面白さが分かり、いろいろな友達と楽しむ。(色おに、高おになど) - 簡単な役割を決めて、自分の役になりきって遊ぶことを楽しむ。 - いろいろな素材に触れ、感触を楽しみながら友達と一緒に試したり、工夫したりして遊ぶ。(色水遊び、砂泥遊びなど)	- 目当てを持って取り組み、存分に体を使って遊ぶ。(竹馬、なわとびなど) - 競い合ったり協力し合ったりしながら、いろいろな運動遊びを楽しむ。(ドッジボール、リレーなど) - 友達の動きを見たり音をきいたりしながら、みんなで一緒に合わせることを楽しむ。(ダンス、リズム遊びなど) - 場の構成や遊びの設定を自分達で考え、言葉のやり取りを楽しむ。 - グループの友達と、相談したりぶつかりたりする中で、イメージを共有し一緒に作りながら遊ぶ。	- 作戦を考えたりルールを変化させたりしながら、自分達で遊びを進めていく。(助け合いなど) - イメージを膨らませて遊びを発展させていき、言葉や動きで表現しながら遊ぶ。 - 自分なりに工夫したり友達と教え合ったりして、じっくりと最後まで取り組む。(あやとり、手編みなど)
環境構成 保育教諭等の配慮		- 一人一人がほっと落ち着けるような場所や遊びを用意する。 - 友達と関わって遊びたくなるような環境を整える。(ごっこ遊び・カードゲームなど) - 年長になった喜びや不安を受け止め、信頼関係を築くよう、一人一人との触れ合いを大切にします。 - 保育教諭等も積極的に遊びの中に入り、一人一人がどんなことを楽しんでいるか知り、共感する。	- 当番表など子どもが分かりやすく確認できるように掲示する。 - 試したり工夫したりしながら、自分で選んで遊べるように、いろいろな材料や用具を使いやすく用意する。 - 子ども同士の思いがすれ違ったりうまく伝わらなかったりする時には、保育教諭等が仲立ちに入りながら遊びを進めていく。 - 子ども同士が互いをより知り合えるように、一人一人の意見や姿を肯定的に受け止め、安心して自分の思いが出来るようにする。	- 食の大切さを感じ、体への興味が増すよう、絵本などの保育教材を利用したり、収穫などの経験ができる場を設定したりする。 - いろいろな活動に挑戦できるように、子ども達の扱いやすい場所に遊具を準備すると共に、伸び伸びと活動できるスペースを確保する。 - 子ども同士のやり取りの際に、どんな言葉の使い方が適切なのか相手の気持ちも考え気づかせていくと共に、一人一人が十分意見が言える場を作る。 - 互いの良さや頑張りを認め合う姿を大切に、達成できたことを一緒に喜んで励まし合ったりして、自信につなげていく。	- 小学校就学に向けて、環境の変化に徐々に慣れていけるように、就学を意図した活動や遊びの場(かるた・文字集めなど)を設定する。 - 一日の生活の流れが分かっている主体的に活動できるよう事前に知らせたり、自分達で話し合ったり決めていく過程を見守ったりする。 - 一つのことを友達と一緒に楽しんで工夫することで、作り上げる喜びを共に感じられるように、見守ったり言葉掛けをししたりする。 - いろいろなことに最後まであきらめずに取り組めるように、後押ししたり友達同士励まし合ったりする姿を認め、共感していく。
保護者支援		- 家庭の様子や保護者の思いを聞いたり、園の様子を具体的に伝えたりすることで、信頼関係を築いていけるようにする。 - クラス便りなどを通じて子どもの姿を知らせ、会話のきっかけとする。 - 保護者同士が知り合う場や機会をつくる。	- クラス懇談会などで、子育ての話ができて共感しほっとできる雰囲気をつくる。またその中で、友達との関わりやクラスの子どもの様子などを知らせていく。 - 子ども同士の思いがすれ違ったりうまく伝わらなかったりする時には、保育教諭等が仲立ちに入りながら遊びを進めていく。 - 子ども同士が互いをより知り合えるように、一人一人の意見や姿を肯定的に受け止め、安心して自分の思いが出来るようにする。	- 個人懇談などで子育てや家庭の悩みを聞きながら保護者のしんどさを受け止め、子ども達の個々の良さや成長をもっと喜び合っていく。 - 行事などの取り組みの過程や子ども達の育ちを伝え、保護者同士が一緒に喜んで子ども達のつながりの大切さを感じ合ったりできるようにする。その中で思いや悩みを話せるよう仲立ちしていく。	- 小学校と連携をとり、学校の様子を保護者が知る機会を持ち、就学に向けて安心して過ごせるようにする。 - 保護者同士が子ども達の成長を喜び合い、互いに話ができ助け合える関係を作れるよう援助し、子育てへの自信につなげていく。
地域支援 地域との交流		地域の子ども達やいろいろな人に出会い挨拶をし、知り合っていく。	地域の人と触れ合っていく中で、いろいろな関わりを経験する。	子ども達がいろいろな行事の中で頑張っている姿を、地域の人に認めてもらうことで自信を持つ。	- たくさんの人と接することで、いろいろな社会があることを知り、地域の人に自分から関わろうとする。 - 地域の小学校への関心を持ち、いろいろな活動を通して小学生との触れ合いを楽しむ。

8. 小学校教育との円滑な接続

人とつながり生きる力の基礎を培う

人とつながり、未来を切り拓く力を育む

「遊び」を通して行う総合的な学び

教科等の学習を中心とした学び

小学校・中学校において子どもたちに身につけてほしい力

	5歳児の最終目標	子ども園で意識したいこと
A (健やかな心と体をもつ子ども)	- 自分の力を十分発揮し、友達と戸外で体を思いきり動かして遊ぶ充実感を味わう - 生活の流れを見通し、考えて行動する - 健康の大切さに気付き、健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける - 友達と一緒に食べることを楽しみ、食べ物への興味・関心を深める - 生命を大切にすること	- いろいろな活動に目標を持って挑戦し、全身を使って活動する心地よさや友達と気持ちを合わせて協力する楽しさを味わったりする。 - 登園時の活動や当番活動、昼食の準備や片付け等、一日の流れがわかって自分から進んで行動していく。見通しを持って遊びや生活を進めていく。 - 健康で安全に過ごすための生活の仕方について、その必要性に気付き、自分から進んで行う。 - 植物の栽培活動や収穫、クッキングなどを通して食に対しての興味・関心を持ち、食を通して命をいただいていることを知る。 - 身近な生き物の飼育や栽培活動を通して生命の大切さに気付く。 - 自分自身がかけがえのない生命をもって生まれたことを実感し、自分や友達を大切にすること。
B (主体的に考え、行動する子ども)	友達と一緒に共通の目的を持って活動を進めていくおもしろさや満足感を味わう	- 季節や身の回りの事象に興味関心が深まり、知ろうとする。 - 積極的に関わっていきこうとする気持ちを大切に、チャレンジしていく経験や振り返る場面を積み上げていく。 - 遊びや生活に必要なものを、友達とやり取りしながら、様々な発想や方法を取り入れつつっていく。 - 自分たちでルールや役割などを考え、主体的に活動に取り組み最後までやり遂げる。 - 様々な場面の中で、自分の思いを出し、相手の思いを聞きながら調整し合う経験をする。
C (豊かな感性を持つ子ども)	- 友達とのつながりや、共に生活する喜びを味わい、自信を持って行動する - 一人一人の違いを認め合い互いを大切にしようとする	- 自分のよさや得意なことが分かり、自分なりに生かそうとする。 - 生活や遊びの中で、いろいろな気持ち(悲しい、嬉しい、悔しい等)を、友達と共感する。 - 思いや考えを出し合いながら遊びを進める活動や経験をする中で、自分とは違う友達の考えや感情があることに気付き、尊重し合う。 - 共通の目的を持って、自分達なりに折り合いをつけたり、調整を図ったりしながら、みんなで最後までやり遂げようとする。
D (自分なりに表現する子ども)	- 友達と活動する中でイメージを膨らませ、心を通わせて遊ぶ楽しさがある - 友達の話をよく聞き、理解しようとする - わからないこと、困ったことを言葉や自分なりの表現方法で伝える	- いろいろな経験を通して描く、体を使う、言葉にするなど、自分なりの方法で表現し伝える楽しさを味わう。 - 友達とイメージを共有して様々な表現を楽しむ。 - 遊びや生活の中で自分の話を大事に聞いてもらうことで、相手の思いに気付いたり、課題を解決する方法を考えて伝え合ったりする。 - 互いに気持ちを受け止めあえる友達の中で、わからないことや困ったことを自分なりに伝えることが解決につながるという経験を重ね、気持ちを言葉で伝えようとする意欲を持つ。

子どもの発達や学びの連続性を踏まえた小学校との円滑な接続

自立
成長
安心

(小学校
スタートカリキュラムの実施)

○体と健康を大切にする力

・自らの体を大切に思い、運動に親しみ健康な生活を営む力

○他者を思いやり、豊かな人間関係を築く力

・他者を尊敬し、コミュニケーションをとりながら、豊かな人間性や社会性を育み、人とつながっていく力

○自らの道を選択する力

・夢に向かい、自己肯定感をもちながら自らの生き方を見直し、自己決定する力

○学び続ける力

・生涯を通して、学び続ける力

○確かな学力

・知識・技能の習得と、自ら考え、主体的に判断し、表現する力

学びの芽生え

自覚的な学び

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。
- 幼保連携型認定こども園・幼稚園・保育所の職員と小学校の教員が持つ5歳児修了時の姿が共有化されることにより、小学校教育との接続の一層の強化が図られることを期待。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標でないことや、個別に取り出されている指導するものではないことに留意が必要である。

- ◎資質・能力の三つの柱
- 知識や技能 (何を知っているか・何ができるか)
- 思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)
- 学びに向かう力、人間力等…情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)

9. 食育計画

豊中市食育計画 一食育を進めていくにあたって、大切にしたいことー
テーマ: 生きる意欲を持ち、自分の体を大切にする子ども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	活動例
(食への意欲・興味・関心)	・味がわかって、好き嫌いがはっきりしてくる → ・友達や大人の支えで苦手なものも食べてみようとする → いろいろなメニュー、食材を楽しんで味わう ・大人に食べさせてもらうことで、食べ物におう、触るなど五感で感じる (いろいろな味を知る) ・料理の名前を知る ・自分で (手づかみ→スプーンやフォークを使って) 食べることがうれしいと感じる → お箸で食べることがうれしいと感じる→料理の仕方や食材によっていろいろな用具を使って食べる ・季節の物を食べる経験をする (旬の物を食べる) → 季節を感じる ・大人と一緒にゆったりとした雰囲気の中で楽しんで食べる → 楽しい雰囲気の中でよく噛んでゆっくり食べることが心地よいとわかる → 次の活動への見通しを持って食事する→ 一定の時間で食べるよう意識する ・グループなど少人数で一緒に食べる → 友達の好き嫌いなど知り合う (アレルギーのある友達の食材なども) ・大人に量を調節してもらい、おかわりやお皿が空っぽになることが楽しくなる → 自分の食べられる量がわかってくる ・もっと食べたい、こんなものが食べたいという思いを持つ						・遠足 ・会食パーティー ・バイキング方式で食べる ・ランチルーム
(五感を通してのおもしろい経験)	菜園活動	・畑やプランターで身近な野菜の栽培をする (大人が世話をすると、収穫するところを見たり、触ってみたりする) → (水をあげたり、草を抜いたり栽培を手伝う) ・その時期に何を植えるのかを知る ・収穫する ・収穫後、種を作って、その種を使って栽培する ・畑の準備、片付けなどを手伝い土に触れる ・野菜や花の色の変化や形の変化に気づく (観察する) ・調理の下準備の手伝いをする (豆をさやから出す、玉ねぎの皮むきなど) ・自分で皮をむいたり切ったり、調理して食べる ・畑でできたものを大人に調理してもらって食べる ・伝統的な食べ物、いろいろな地域や国の食文化に触れる (食材、メニュー、食べ方、由来、意味などを知る) ・食材に興味を持つ (見る・触るなど経験する) ・作ってくれる人への感謝の気持ちを持つ (肉や野菜などがどのように作られているかを知る)					・ミニトマト、キュウリ、なすび、トウモロコシなどの身近な野菜の栽培をする ・パプリカ、さんじゃくめ、紫オクラなど色の変化や形の変化がわかりやすい野菜の栽培 ・焼く、炒める、ゆでる、蒸す、炊くなどいろいろな調理法で調理する ・いろいろな国の料理を教えてもらう
	クッキング						
(命の尊厳・生きていく力)	・泣くことでおなかがすいたことが伝わり、ミルクや食事などを通して大人に命を大切にもらう経験をする。 ・おなかがすくということがわかる ・植物だけでなく、動物の命をいただいていることを知り大切に食べようとする ・野菜の収穫体験など命をいただいていることを保育教諭から知らせてもらう → 自分で野菜を育て命をいただいていることを知る ・作物が枯れること、動物や虫などに食べられることなど知っていく ・自分の食べられる量を大人に調整してもらって知る → 自分で食べられる量がわかって残さず食べる ・身体に必要な栄養を取るために食べることがわかり、食べる (食べ物の3つの食品群を理解し、バランスよく食べようとする) ・大人が必要な清潔習慣 (手洗いなど) を知らせ、一緒にする → なぜ必要かわかって、自分から手洗いに行くなどする ・規則正しい睡眠や食事が体にとって必要なことがわかる						・「手で食べる?」「命をいただく」などの絵本 ・菜園活動、動物や昆虫の飼育など
留意点	*いろいろな国の文化や地域性などを大切に、宗教食などについても意識しておく *食物アレルギーのある子どももいることを考えておく (必要があれば、子ども達にも知らせていく) *楽しい食事を支えるために必要なマナーなどについても意識して取り組む						

10. 行事について

保護者に参加していただく主な行事

月	行事
4月～5月頃	入園・進級式 保育参観(参加) 懇談会
9月～10月頃	運動会
2月頃	生活発表会
3月	修了式
随時	保育参観(参加) 懇談会(個人・学級)

*行事の名称や時期は各園で違う場合がある。保護者参加の行事に関しては、その趣旨やねらいを保護者に伝え参加を呼び掛けながら、子どもが友達と関わり合い喜んで参加する姿や成長を共に喜び合うことを目的とする。

(詳細は月間指導計画に盛り込むこと)

*園によっては上記以外に、季節行事や、“豊中市人権保育基本方針”に基づいた行事（5月の子ども権利条約に基づく『子ども月間』・夏の『平和月間』・12月の世界人権デイに合わせた『人権月間』・子どもの言葉から内面の思いを知る『つぶやき展』・保護者と共に子どもの人権や育ちを考える『保護者講演会』など）に、子育て子育ちの視点で取り組んでいる。

子どもの成長を願い、園での子どもの姿や大切にしたい園の方針などを丁寧に保護者に啓発し、保護者と共に行事に取り組んでいくことが大切である。



11. < 地域支援・地域との連携 > ◎めざす地域子育て支援

* 地域支援センター → 連携園：支援員が週1回常駐

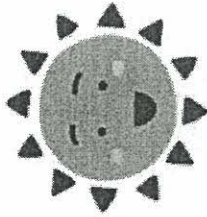
事業の柱	事業	実施回数	こども園 (センター)	こども園 (連携園)
○安心して子育てできるサービス提供の充実 * 身近な相談対応や子育ての情報提供を充実し、適切なアドバイスを得られるようしくみ作りに取り組み、保護者がつらさを感じたとき、安心して子育てすることができるように、支援をめざす。	もしもし相談・ふれあい相談 (保護者の悩み不安軽減のため、相談を受ける)	必須	○	○
○子育て親子の交流の場の提供	園開放 (地域の親子が気軽に集い、触れ合う場の提供を行い、不安軽減につなげる)	必須	○	○
○子育てに関する講座の開催 * 子育て親子が気軽に安心して利用できる場を作り、親子が集い・触れ合い、お互いの情報交換ができ交流を深める場とする。 * 子どもの育ちや関わりなどの講座を通じて、個々の子育て・子育てのあり方に気付き、自信を取り戻す場とする。	センターであそぼう (家庭では経験できない遊びなど、親子で遊びを楽しむ機会の提供)	必須	○	△
	公園であそぼうmini (地域の親子に対し、公園で様々な相談を受け、保護者の悩み・不安軽減につなげる)	可能な範囲 (近隣に公園などある場合)	△	△
	育ちの講座 (子どもの育ちや健康・関わり方について話を聞き子育てにつながる機会とする)	必須 (1、2歳児ごと年1回実施 * 必要に応じて3歳を実施)	○	△
	おやつ講座・離乳食講習会 (厨房施設のある園) (様々な食材を使って、簡単に手作りできるおやつを作ったり、離乳食の作り方を学ぶ機会とする)	おやつ講座 (年1回実施) 離乳食講習会 (随時開催)	○	○
	ほっとタイム (プレイルームに來館した親子に遊びを提供し、子ども・保護者同士が知り合う機会とする)	必須	○	○
○地域子育て・子育てネットワークづくり * 子ども達一人一人の人間としての尊厳が守られ、豊かに生きていくために地域社会全体で子育て・子育て支援の活性化を図る地域ネットワーク作りの推進をめざす。	地域子育て・子育て支援ネットワーク校區連絡会 (地域の子どもに関わる機関・団体が協働、子育て家庭をサポートする身近な地域での子育て・子育て環境の充実を図る)	担当校區連絡会の運営	○	○
○地域活動、子育てサークルの育成支援 * 子育てサークルの立ち上げや実際の活動の活性化のための相談交流などを支援し、子育て中の保護者が子育ての喜びを実感し、悩みを出し合う場を持ち、地域の中でつながり支え合う仲間作りをめざす。	いるかグループ (2歳から2歳11か月の子どもとその保護者を対象に、こども園との交流や遊びの提供・情報提供)	必須 (1期4回シリーズを年1回以上)	○	△
	こぐまグループ (1歳6か月から1歳11か月の子どもとその保護者を対象に、遊びの提供・情報提供)	必須 (1期4回シリーズを年1回以上)	○	△
	びびよ (0歳児の子どもと保護者・妊婦)	必須 (月1回実施) * 発育測定など	○	△
	わんわん (1歳の子どもと保護者)	必須 (月1回実施) * 発育測定など	○	△
	みつばち (2歳から就学前の子どもと保護者)	「センターであそぼう」に合流実施	○	△
	出前講座 (子育てサロンに出向き遊びの提供と遊具の貸し出し情報提供をする)	可能な範囲で協力 * 地域性等、園行事で参加は可	○	○
○子育て支援情報の発信 * 市ホームページや情報誌の発行を通じて子育て支援情報を広く発信することで、地域とつながるきっかけになり子育て家庭の孤立化を防ぐことをめざす。	月の予定 (市HP) (園ごとの「月の予定」を、2月分を公開する)	定型フォーマットへの入力	○	○
	イベントスケジュール (市HP) (公立、民間園も含めたイベント情報を日毎にまとめ、毎月月末に最新情報を公開する)	上記月間予定より、抜粋のうえ掲載	情報提供	情報提供
	子育てマップてくてく (情報誌) (市内を北東部・北西部・中部・南部地域に分け、公立・民間園などの年間子育て支援情報を冊子にし、毎年5月中旬に発行)	年間スケジュール作成	情報提供	情報提供

【参考】子育て支援センター ほっぺ

【めざす地域社会】

安心して子育てできるよう、子育て家庭に関わるすべての人が、それぞれの役割について認識し、

互いにつなぐ力を深め、地域全体であたかく子育て家庭を支える社会



子育て家庭に関わるすべての人がつながる

緊急一時保育（地域支援の一環…参考資料）

緊急一時保育は、保護者の疾病・災害・事故・出産・看護・介護・冠婚葬祭等社会的にやむを得ない理由により、急に家庭での保育が困難となった場合、利用の初日から1ヶ月のうち、同じ理由で12日間を限度として市立こども園を利用できる事業です。保護者と離れて過ごす不安を、少しでも取り除き、安心して同年齢の友達とともに過ごし、遊んだり生活したりする経験をできるように、一人一人のペースに合わせて保育していきます。

【利用できる方】

満1歳以上就学前までの乳幼児

【利用方法】

- 事前登録をしてください。（登録は、年度毎に必要です。）
- 登録書と利用申込書を、利用される市立こども園へ提出してください。
- 利用時にはお子さんの健康診断が必要です。（実費負担）※1日のみ利用の場合は不要
- 原則としてご利用は1日1組です。なるべく事前にご利用日をご連絡ください。

当日は、同じ年齢のクラスで過ごします。

【利用料】

朝7時から夕方7時までの保育をしています。

1人につき日額 2,200円と飲食費 400円です。

【持ち物】

- ・着替え（シャツ・パンツ・Tシャツ・ズボンなど）・手ふきタオル・外用のクツ
- ・汚れものの入れ（スーパーの袋） ・お手拭き・食事用エプロン（乳児のみ）
- ・用意していただく枚数などは、お子さんにより違いがあると思いますので、利用されるこども園で説明を聞いてください。

☆“おひるね”は、午後1時頃から始まります。

昼寝用の布団は、こども園の方にある場合もあります。ご利用の園でご確認ください。

- ◆ 給食（全こども園同じ献立）は、11時30分ごろからはじまります。
- ◆ アレルギー等で、除去食を希望される方は申し出てください。
感染症（はしか・百日咳・流行性角結膜炎）など、集団生活に支障をきたす場合はご利用できない場合があります。
- ◆ 保育開始時間までに特別警報・暴風警報が発令されたときは休園となります。
こども園では月に1度“弁当の日”があります。
利用日と重なる場合は“弁当”の用意をしてください。
利用料は、利用日ごとに納めてください。

V 特に配慮すべき事項

◆ 延長保育（資料2）

- 延長保育は、教育保育時間外（認定保育時間外）に行う保育である。
- 園児の在園時間の長短など、一人一人の生活リズムを配慮したきめ細やかな延長保育の工夫を保育教諭間の連携の下行う。（例：1号・2号への降園時など多様な生活リズムへの心のケア等の配慮含む）

◆ 特別支援教育（障害のある園児の指導）

- 特別支援教育を進めるにあたっては、子ども同士が互いの良さや違いを認め合い、共に育ち合える環境や活動を工夫し、子どもの発達を全体的に促していく。また、保護者と保育教諭、保護者同士の連携に努め、子どもの育ちを共に支え合う人間関係を築く。
- 障害のある幼児の自立に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活上などの困難を改善または克服するため、適切な指導または、必要な支援を行う。特別支援教育を推進することは障害の有無に関わらず、すべての幼児への指導の充実に資するものと捉える。
- 障害の種類や程度などを的確に把握し、個々に応じた指導内容や方法を工夫すると共に、特別支援学校や医療・福祉などの専門機関である（児童発達支援センター）との連携を密にし、専門的な助言や指導を活用しながら、適切な指導を計画的・組織的に行う。

◆ 特別に配慮を要する園児への対応

- 児童虐待と判定されてから対応策を考えるのではなく、マルトリートメントを受けていると判断されたら、関係機関と連携を図り、要保護児童対策地域協議会で検討するなど適切な対応を図る。
- 見守りの必要な家庭には、こども相談課と連携を密にし、虐待防止につながる見守りを継続していく。また園の状況によっては、家庭支援事業の保育士を配置し支援強化を行う。
- 保育教諭は、児童の福祉及び教育に携わる専門職として、虐待を発見または疑いがある場合には、通告をする義務がある。（「児童虐待の防止などに関する法律」にある通告義務は、守秘義務より優先される）
- 虐待が疑われる家庭を発見した場合には、その子どもをこども園で受け入れ、親子が分離できる環境を作る。
- 子どもの年齢や状況に合わせて、個別的な配慮の中から保育を進めていく。園が、安全で安心な場所だと子どもが理解すると、感情や行動が表に現れ始めることがある。他児とのトラブル、困らせる行動などに対しては、それを園全体で受け止めていく。
- 保育教諭は、子どもを介して保護者と信頼関係を作り、安心して園に通ってもらうように配慮のある関わりを重ねていく。
- 見守り家庭の子どもの様子を日々確認し、安定した生活が送れているかどうかなども見守るとともに、虐待防止には、地域力の活用も視野に入れ地域のネットワーク（民生委員・主任児童委員・CSW・学校関係者など）の連携を強化していく。

◆ 園児の多様性への配慮

・生活時間について〈資料3〉

- 幼保連携型認定こども園では、保護者の就労状況等の生活形態が異なることなどから、園の教育及び保育の内容についての期待や要望も多様なため、こうした実態を把握しておく。また、幼保連携型認定こども園で過ごす時間が、比較的長時間となる園児もいるため、家庭での過ごし方を聞いたり、園での生活を伝えたりして、家庭生活との連続性を確保するとともに、教育及び保育の内容を考える。
- 保育教諭等は、入園した年齢により集団生活の経験が異なることに配慮して、0歳から小学校就学前までの園児の発達の連続性を見通し、園児一人一人の発達の過程に応じ、一貫した教育及び保育を展開していく。
- 幼保連携型認定こども園においては、在園4時間で降園する園児もいれば、8時間在園する園児や、保護者の就労その他の家族の生活形態を反映した状況により在園時間が10時間を超える園児もいるなど、園児一人一人の在園時間が異なることから一日の園生活の過ごし方が多様である。長時間在園する園児については短時間の園児が降園した後は、家庭での生活と同じような和やかな雰囲気でも過ごすことができるようにしたり、地域での生活と同様に異年齢の園児との交流ができるように、保育形態を工夫したり、高齢者を始めとした様々な人との触れ合いを持つことができるような活動を取り入れたりすることも必要である。また三季休業中の保育についても、同じように家庭生活を反映した形で行うとともに、教育・保育の中で、どの子どもが家庭やこども園で過ごしたことの経験を共有できるように内容を工夫する。

・男女共同参画、多文化的な視点

- ことばや文化の違い、また社会的・文化的に形成される性別などに関わりなく、すべての子どもたちがその子らしくあり、自分に自信を持てるよう、自尊感情や互いの違いを認め合い尊重し合う心を育む教育・保育を行う。
- 誇りをもって自分らしく生きる力を育てるために、子ども一人一人の個性を尊重し、家庭、学校、地域が一体となって、障害や多文化・男女共生・家族のあり方など、多様性の大切さを理解し意識できるよう啓発する役割も担う。

◆健康・安全など〈資料4〉

- 園児の健康及び安全は、生命の保持と健やかな生活の基本であることから、準用する学校保健安全法に基づき、園の「保健計画」「安全計画」など、すべての職員がねらいや内容を把握し実施していく。疾病などへの対応は、養護教諭や看護師及び保健師などの専門性を活かした対応を図る。
- 環境、衛生管理、安全管理、事故防止及び非常時の安全対策も含め、それぞれに応じた年間計画を園全体で作成し、職員の共通理解や体制作りを図り対応していく。家庭や地域の諸機関の協力の下に安全指導を行うこと。

◆ プライバシーの保護〈資料5〉

- 「個人情報の保護に関する法律」（平成15年）が策定され「個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべき」ものであることが示され、豊中市でも「豊中市個人情報保護条例」を制定し、その目的実現に向けて園すべての職員は『個人情報に関するプライバシーポリシーについて』における個人情報の適切な取り扱いに努める。

◆ 質の評価・園評価〈資料6〉

- 子どもの成長・発達を支え、教育・保育の充実や質の向上を図るため、保育教諭等一人一人が自らの保育実践や、子どもの心の育ち・意欲・環境に取り組む過程の変容などについて振り返る自己評価を行う。また、その自己評価が自己完結的なものに陥らないよう、取り組みの結果や課題について、職員の協同性を高めながら共通認識を深め、保育の計画・実践・評価・改善というPDCAのサイクルに則り、組織的かつ継続的に保育の質の向上に向けた改善を図る。⇒『公立こども園自己評価表（H31.3策定）』
- 自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、こども園・家庭・地域が各園の現状と課題について共通理解を深め、園運営の改善に向けた相互の連携・協力を促進することを目的として、園長のリーダーシップのもと職員全員が参加し、園全体の運営に対して園評価を行う。『豊中市教育保育環境ガイドライン（H31.3策定）』を、一年に2回程度活用し環境の視点からチェックを行い、客観的に園の教育・保育の質を分析し保育の向上をめざす。
リーダーシップに関しては、上記ガイドラインのリーダーシップの部分を参照し、同僚性を発揮しながらそれぞれのリーダーシップをめざす。
- 各園が、年度終わりに保護者アンケートを実施し、アンケート結果から教育・保育の改善に取り組む。園の評価やアンケート集計結果などは、ホームページに掲載し公表を行う。

◆ 苦情解決

- 幼保連携型認定こども園では、幼稚園と保育所の機能を持ち合わせているので「保護者の苦情に対し、その解決を図るよう努めなければならない」としている。（社会福祉法第82条及び児童福祉法最低基準第14条の3に規定）
- 施設には、苦情を相談できる案内版を掲示しなければならない。
（公立：「豊中市健康福祉サービス苦情調整委員会」の掲示）
- 苦情を通し自らの教育・保育や保護者への対応を謙虚に振り返り、誠実に対応していくことが肝要である。また保育教諭の考えや意図などを十分に説明しながら、改善や努力の意思を表明することが必要である。
- こども園の説明責任や評価とともに、教育・保育の内容を継続的に見直し改善を行い、保育の質の向上を図る仕組みであり、社会的責任を果たすために欠かせないものである。

◆ 評議会

- 子どもの健やかな成長を担うために、こども園・家庭・地域が連携・協力し、一体となり地域に開かれた園づくりをより一層推進することを目的とする。また各こども園は、園の実

情に応じながら、保護者や地域の意向を把握・反映し、説明責任を果たす。

- 学期におおむね1回の割合で協議会を開催し、保育参観を通して子どもの姿や保育の意図を伝えたり、園運営の現状や各関係機関等との連携の状況を説明したりするとともに、交わされた意見や感想・提案などを基に園教育・保育の更なる充実に向けて協議を行う。

◆ 職員研修（職員の資質向上）〈資料7〉

- 幼保連携型認定こども園は、教育と保育を一体化したものであり、柔軟な教育・保育観を持ち、職員同士で議論交流を深めながら保育実践を行う必要がある。
- すべての職員にはそれぞれにふさわしい専門性が求められる。子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した教育・保育を行うためには職員一人一人の倫理観、人間性並びに職員としての職務及び責任の理解と自覚が基盤となる。
- 子どもへの教育・保育及び保護者への支援並びに地域への子育て支援を行うために、様々な知識と技術及び適切な判断が求められる。
- 保育教諭等の資質向上のために、園内研修や園外研修に参加し、自らの専門性を高めていかなければならない。参加した職員は、研修内容を園全体に丁寧に還すことで園全体の質の向上につなげていく。園の子どもの状況や子どもを取り巻く環境、社会の変化も捉えながら、講師選択や研修内容を鑑みる必要がある。
- 大阪府の幼児教育アドバイザー育成研修に、代表者が参加する。その育成研修を修了した幼児教育アドバイザーの資格認定者は、園内研修などで専門性を発揮しながら、職員への働き掛けを行うとともに、豊中市のサポートセンターに登録し、近隣の就学前施設から保育の相談などの依頼があった場合は、サポーターとして保育の相談助言などを行う。

また、職員の資質向上のツールとして「豊中市教育保育環境ガイドライン」などを活用し、推進していく。サポーターとして行うことが、コミュニケーション力や新しい発見、自分の学びにもつながっていることを自覚する。

◆ 休日保育（満1歳以上）〈資料8〉

- 基本的には豊中市全域の、認可保育所・こども園の在園児を対象にしている。登録制の為、休日保育利用の場合在園している園との連携や保護者からの丁寧な聞き取りを行う。
- 児童一人一人に家庭的な雰囲気や安心感を与える保育環境に心掛ける。保育にあたる職員も複数のこども園からの構成チームのため、いつもよりきめ細やかな配慮や言葉掛けを行い、互いに連携を密にしながら保育を行う。